

令和 2 年度

# 農 作 業 事 故 報 告 書

令和 3 年 8 月



北海道農作業安全運動推進本部



# は し が き

北海道農作業安全運動推進本部では、北海道農作業事故報告取扱要領（昭和52年8月3日付け畑作第500号農務部長通達）に基づき、関係機関・団体の協力をいただきながら、令和2年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日）農作業事故調査結果を取りまとめました。

道内における農作業の負傷事故は、年間約2,200件前後発生し、ほぼ横ばい状況で推移していましたが、令和2年度は、前年を181件下回る2,097件（前年対比92.1%）で減少傾向となりました。

負傷事故では、牛・馬・豚などの家畜による事故が798件（38.1%）で最も多く、次いで農業機械による事故が617件（29.4%）と、家畜による事故が、農業機械による事故を大幅に上回って推移しています。

また、年間20件前後発生する死亡事故も、29年以降の3年間は連続して前年を上回っていましたが、令和2年度は、前年を3件下回る16件（前年対比84.2%）と減少傾向を示しています。

死亡事故の原因は、全体の12件、75%が農業機械によるものです。その内、トラクターとフォークリフトによる事故が7件で、ほぼ6割を占めています。また、農業機械による女性の事故が6件、5割を占めているのが大きな特徴です。このような状況を踏まえ、補助作業者を伴う農業機械作業に当たっては、機械の発進、停止の合図や周囲からの「声かけ」などの安全対策を推進するとともに、改めて注意喚起の徹底が必要となっています。

被害に遭われた方の年齢層は、農業の高齢化が進行しているため、全体の12件、75%が60歳以上の高齢者です。その内、70歳以上の高齢者がほぼ6割を占めており、機械の改良、作業方法の見直しや作業環境の改善など、高齢者の方々の事故低減に向けた取り組みが急がれます。

当本部は、これまで道をはじめ市町村・JA、各地区推進本部と連携し、農作業事故ゼロ運動の推進と事故防止に積極的に取り組んでおりますが、農作業事故を減少させ、事故ゼロを目指していくためには、農業者自身の安全意識の自己啓発や機械利用技術の向上、健康管理等が不可欠です。その上で、家族や地域が一体となって農作業安全運動に取り組んでいくことも極めて重要です。

また、当本部では、平成18年度から道路走行中のトラクター等の追突事故を防止するため、交通ルールと運転マナーを遵守し、低速車マークや反射板の装着を推進する他、農業労災保険と傷害共済・自動車共済等任意保険への加入を働きかける農作業安全『M、M、H』運動を進めてきました。今後も引き続き、『M、M、H』運動を推進し、トラクター等の交通事故防止に努めることとしています。

農作業事故ゼロに向けては、今後とも、関係機関が一丸となって更なる努力をしていくことが大切なことは言うまでもありません。

この報告書が、農作業事故防止のために有効に活用され、快適で安全・安心な農作業が行われる一助となることを願っています。

令和3年8月

北海道農作業安全運動推進本部  
本部長 柴田倫宏

# 目 次

は し が き

I 調 査 方 法 .....	3
II 農作業事故報告取扱要領.....	3
III 調査結果の概要 .....	9
1 総 括 .....	9
2 性 別 .....	10
3 年 齢 .....	11
4 時 期 .....	15
5 発 生 場 所 .....	17
6 発生時間帯 .....	19
7 事故の対象物件等.....	24
8 事故の部位 .....	30
9 負傷の内容 .....	32
10 負傷の程度 .....	34
11 トラクター事故の原因別状況.....	34
12 農業就業人口（2020年農林業センサス）からみた農作業事故 .....	37
IV 地区別農作業事故発生状況.....	39
V 市町村別農作業事故発生状況.....	61
VI 参 考 資 料 .....	69
1 令和2年度農作業事故発生状況（死亡） .....	71
2 令和2年度NHKラジオ放送用原稿（お知らせ版） .....	74

I 調 査 方 法	3
II 農作業事故報告取扱要領	3
III 調査結果の概要	9



# I 調査方法

当本部が実施している調査は、北海道の「農作業事故報告取扱要領」により次の通り行っています。

- ① 市町村→総合振興局・振興局→農政部への報告書のうち（別記第1号様式）を調査票としています。
- ② 本部が関係団体の協力を得て、農作業事故関係分を選別して調査票（別記第1号様式）を記入作成しています。
- ③ ①と②は克明につき合せを行い、重複しているものは片方をカットしています。

以上が事故調査の個票の基本となっていますが、問題点として次のような事項が残されていることについて了知願います。

- 1 事故が軽微で届出がない場合はこの統計にのらない。
- 2 農業協同組合共済に未加入の場合で、市町村の事故掌握からも洩れた場合は、この統計にのらない。
- 3 農業協同組合共済の事故票は、農作業事故の実態把握を目的としたものではないため詳細な事故原因、分析等が困難な場合、調査者の判断で判定する要素がある。更に地域別の事故捕捉率や事故発生頻度と安全運動の成果等について必ずしも明確でない面もある。

以上が事故報告にあたっての調査方法と、その制約的事項ですが、本書の利用にあたってはこれらの点について配慮願います。

## II 農作業事故報告取扱要領

昭和52年8月3日  
畑作第500号農務部長通達  
昭和61年8月20日一部改正  
昭和63年5月20日一部改正  
平成元年5月17日一部改正  
平成18年6月1日一部改正  
平成20年3月4日一部改正  
平成22年7月27日一部改正  
平成24年3月28日一部改正

### 1 目的

最近における農業技術の進歩や農業機械の多様化、高度化に伴って、農業機械等による事故が多発し、その内容も複雑化、重度化しているため、実態を迅速かつ的確に把握し、今後の農作業事故防止対策の基礎資料とする。

## 2 報告の種類

事故発生状況の報告は、次の2種類とする。

- (1) 死亡事故報告
- (2) 負傷事故報告

## 3 農作業事故の定義

本調査で農作業事故とは、すべての農作業中に発生した事故及び農作業中でない場合であっても農業機械によって負傷または死亡した事故（以下「農作業事故」という。）とする。

## 4 調査の対象

- (1) 死亡  
農作業事故による傷害の結果、生命を失った者。
- (2) 負傷  
農作業事故による負傷の結果、入院もしくは通院を伴う治療を受けた者。

## 5 報告要領

事故の報告については、次の手順に従い報告するものとする。

### (1) 死亡事故報告

市町村は、当該事故が発生したときは、農業協同組合等の協力を得て速やかに事故状況を把握し、別記第1号様式により、発生の都度、総合振興局・振興局に報告し、総合振興局・振興局は農政部に報告するものとする。なお、市町村においては、定期的に戸籍の死亡届の閲覧確認を行うなど、報告もれがないよう配慮すること。

### (2) 負傷事故報告

市町村は、当該事故の発生状況を、農業協同組合等の協力を得て的確に把握し、下表に定める期間ごとに、別記第1号様式に別記第2号様式を添付して、総合振興局・振興局に報告し、総合振興局・振興局は市町村の事故報告を取りまとめ農政部に報告するものとする。

なお、市町村においては、農業協同組合共済関係部署に確認するなど、報告もれがないよう配慮すること。

報告期間及び報告期限は下表のとおり。

報告期間	市町村から総合振興局・振興局に報告する期限	総合振興局・振興局から農政部に報告する期限
4月～9月	10月10日	10月15日
10月～3月	4月10日	4月15日



## 調査報告上の留意事項

### 1 報告対象

- (1) 農作業中に発生した事故は、調査対象者を農業従事者（農業常雇及び農業臨時雇を含む）とし、例えば次に類するような事故とする。
  - ア 農作業中における農業機械による事故
  - イ 農作業中における牛、馬等による事故
  - ウ 農作業中における農薬、有害ガス等による中毒事故
  - エ 乾燥作業中における火傷事故

（注）農作業とは、農業生産活動に伴う一切の作業で、生産資材の調達や運搬、農業機械等の修理、整備、市場までの出荷に伴う作業（ライスセンター、カントリーエレベーターの調整や選果場での選果等）等を含む。
- (2) 農作業以外で農業機械による事故は、全ての人を対象とし、例えば次に類するような事故とする。
  - ア 農業機械による事故で小児の事故も含む
  - イ トラクター等での除雪作業等の事故

### 2 報告対象外

- (1) 農薬の誤飲による事故
- (2) 乗用車等による人夫等の送り迎え中の交通事故
- (3) 圃場整備等ブルドーザーによる土木工事中による事故
- (4) 山林の草刈り作業中の事故
- (5) 農業以外で農業機械を使用せずに用水、溜池等に転落した事故
- (6) その他(1)～(5)に類するような事故

(別記第1号様式)

( 表 面 )  
農 作 業 事 故 調 査 票

総合振興局・振興局	番号	生年月日	M T S H	年	月	日	* 調査No						
市 町 村 名							* コード						
農業協同組合名							* コード						
性 別	1男 2女												
年 齢							満				才		
発 生 日	平成 年 月 日												
発 生 時 刻	時 分 頃 (注: 24時間法) 不明は9999												
取 得 免 許	1原付 2自動二輪 3普通 4大型一種 5小型特殊 6大型特殊 7牽引 8無 9不明												
事 故 発 生 現 場	01水田 02畑 03牧草地 04農道 05公道 06道路取付口 07自宅 08敷地内 09山林 10畜舎 11サイロ 12乾燥収納舎 13納屋 14農業機械格納庫 15ハウス 16用水路 17堆肥場 18不明 19その他 ( )												
傷 害 名 称 ( 診 断 名 )	01切断 02裂傷 03切傷 04骨折 05打撲 06挫傷 07挫損 08失明 09捻挫 10アキレス腱切断 11麻痺 12流産 13火傷 14目角膜傷 15脱臼 16刺傷 17手指切断 18足指切断 19筋切断 20不明 21その他 ( )												
死 亡 負 傷	1死亡 2負傷 負傷の場合 入院日数 (日数不明の場合は999) ※通院の場合は000と表記する 通院日数 ( " )												
事 故 部 位	01頭(顔) 02目 03耳 04首 05左腕 06左手 07右腕 08右手 09手指 10左足 11右足 12足指 13肩 14胸 15腹 16腰 17背 18臀(尻) 19肋骨 20全身 21不明 22その他 ( )												
事 故 対 象 物 件	トラクタ	01トラクタ 銘柄 ( ) 型式 ( ) 年式 ( ) PS ( )											
	動 力	02電動機(モータ) 03発動機(エンジン) 08耕うん機 09テラ 64農用ブルドーザ											
	耕 う ん 地 整	04ブラウ 05サブソイラ・心土破砕機 06ディスクハロ(パワーディスク) 07ロータリ 19代かき機 23鎮圧機(ローラ) 24均平機(スプリングハロ)											
	施 肥 ・ 播 種	10コーンプランタ 11ビーンプランタ 12ビートプランタ 13ポテトプランタ 14ドリル 15マニアスプレッタ 16スラリスプレッタ(尿散布機) 17ブロードカスタ 18ライムソーワ 20田植機 21ビート移植機 22玉ネギ移植機											
	管 理 ・ 防 除	25カルテベータ 26培土機 27スプレーヤ 28動力噴霧器 29動力散粉機 30人力(背負)防除機 72刈払機											
	収 穫	稲 作	31バインダ 32自脱型コンバイン										
		畑 作	33普通型コンバイン 34ビーンハーベスタ 35ビートハーベスタ(ビートタッパ) 36ポテトハーベスタ(ポテトディガ) 37玉ネギハーベスタ 66スイートコーンハーベスタ 75野菜堀取機										
		飼 料 作	38レシプロ型モア 39ディスクモア 40モアコンディショナ 41ロータリ型レーキ・テッダ 42その他のレーキテッダ 43グラスチョッパー 44コンパクトベアラ 45ロールベアラ 47コーンハーベスタ 48フォーレージハーベスタ										
	運 搬 ・ 処 理	46ペールローダ 49ヘーエレベータ 50フォーレージブローア 51吹上カッタ 52ダンプトラック(トラックは62) 53トレーラー 54ダンプトレーラー 55ロードワゴン 56ピックアップワゴン 57ショベルローダー・フォークリフト 58一輪車 59二輪車 60フロントローダー 61バックレーキ 62トラック 63ローリー類 68サイレージ用ディストリビュータ 69サイレージ用アンローダ											
	調 製	65スレッシャ 67脱穀機(自脱) 70もみすり機 71乾燥機 76野菜洗浄機 77米ほか選別機											
	そ の 他 機 械	73自動穴掘機 74溝掘機(トレンチャ) 78除雪機 79チェーンソー 80その他 ( )											
	家 畜 ・ 農 薬	81 牛 82 馬 83 豚 87 農薬中毒(種類: 殺虫・殺菌・除草) 88 農薬不明											
小 農 具	89 鎌 90 鍬 91 小農具その他 ( ) 92 小農具不明												
そ の 他	84 高所転落(機械名・施設名 高さ m) 85 人の転倒 86 蜂 93 その他 ( ) 94 不明												
労 災 加 入 状 況	01特定農作業従事者 02中小事業主等 03指定農業機械作業従事者 09無 10不明												
農 協 共 済 加 入 状 況	1加入有 2加入無 3不明												
事 故 対 策 研 修 会 参 加 状 況	1有 2無 3不明												
安 全 フ レーム 装 着 状 況	1二柱式 2四柱式 3安全キャビン 4無 5不明												
トラクタによる 事故の原因別状況	転倒・転落	衣類がからむ	物を落とす・挟む	機械より落下	人の転倒	整備中	その他						
	11 田	21 PTO部	31 整備着脱時	41乗降時	51作業中	61 油圧関係	70 同業同業者者						
	12 畑	22 作業装置	32 動力伝達部	43作業中	52整備中	62 機械関係	80 交通事故						
	13 牧草地	23 その他	33 その他			63 工具関係	91 作業機独自						
14 道路・農道						92 その他							
						記載者	(所属)	(氏名)					

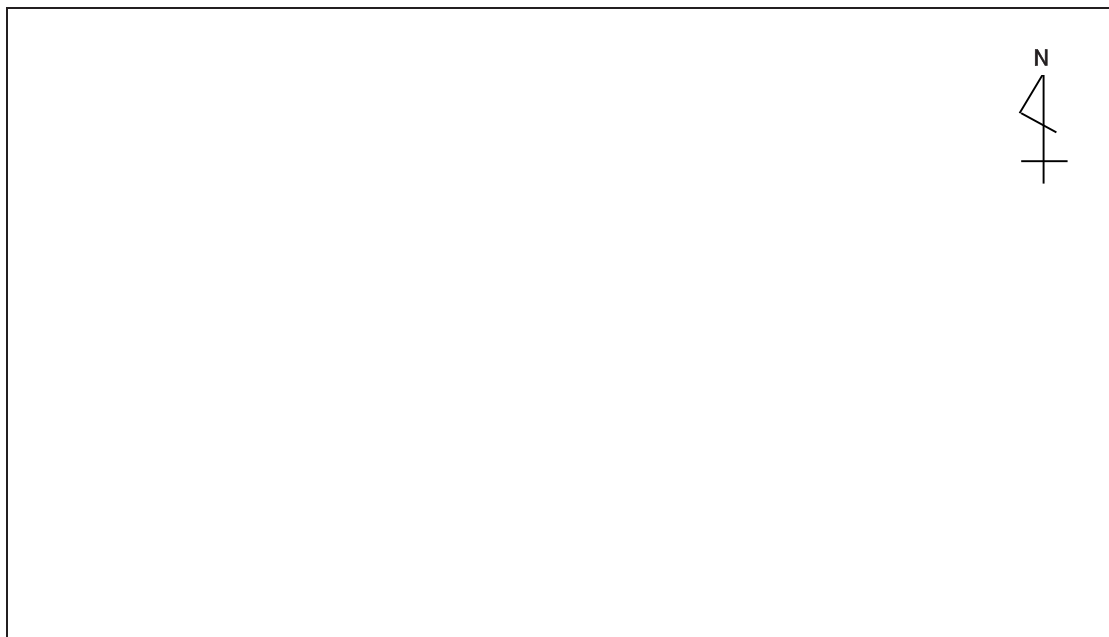
\* 印は記載不要

( 裏 面 )

機械に関する情報	機 械 の 種 類		メーカ一名	
	製 品 名 ・ 型 式 名		製 造 年	
	検 査 ・ 鑑 定 の 有 無	型式検査合格機 安全鑑定適合機 該当なし 不明		
	整 備 ・ 点 検 実 績			

発 生 原 因 ・ 状 況 等	

事故状況図 (詳細)



※ 事故の発生状況を記載すること。

(別記第2号様式)

農作業事故発生状況(負傷)

(総合振興局・振興局名

)

平成 年 月 ～ 月

市町村名	農協名	事故者			発生		発生場所	農業名	使用機械施設名	取得免許の種類	傷害部位	傷害程度 入院・通院の別	農業機械 研修受講の有無	労災保険 共済等加入の有無	この期間中に市町村 (総合振興局・振興局)が行った安全対策 の指導内容
		番号	年齢	性別	月日	時刻									

※事故者の番号は、市町村毎に連番とする。

### Ⅲ 調査結果の概要

#### 1 総括

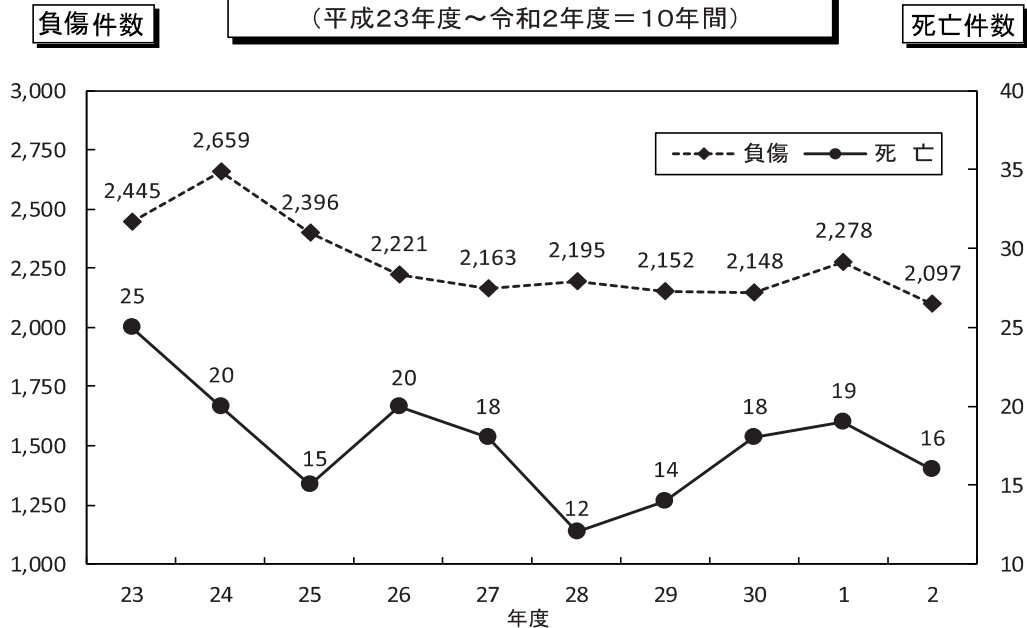
死亡、負傷ともに前年を下回る

- (1) 事故件数は全体で減少傾向（前年比 92.0%）  
令和2年度は、死亡、負傷合せて2,113件で、前年度より184件減少した。
- (2) 死亡件数は減少（前年比 84.2%）  
死亡は16件で、前年度の19件より3件減少した。
- (3) 負傷件数も減少（前年比 92.1%）  
負傷は2,097件で、前年度の2,278件より181件減少した。

第1表 年度別事故発生状況（過去10年間）

年度	死 亡			負 傷			合 計	対前年比 %
	男	女	計	男	女	計		
23	18	7	25	1,670	775	2,445	2,470	94.5%
24	18	2	20	1,770	889	2,659	2,679	108.5%
25	12	3	15	1,635	761	2,396	2,411	90.0%
26	16	4	20	1,490	731	2,221	2,241	92.9%
27	14	4	18	1,409	754	2,163	2,181	97.3%
28	11	1	12	1,459	736	2,195	2,207	101.2%
29	13	1	14	1,488	664	2,152	2,166	98.1%
30	15	3	18	1,441	707	2,148	2,166	100.0%
1	17	2	19	1,548	730	2,278	2,297	106.0%
2	10	6	16	1,409	688	2,097	2,113	92.0%
計	144	33	177	15,319	7,435	22,754	22,931	—

第1図 年度別事故発生状況の推移（死亡・負傷）  
（平成23年度～令和2年度＝10年間）



## 2 性別

### 男性 67.2%、女性 32.8%の事故割合

#### (1) 農業就業者の 45.0%が女性

農林水産省「2020年農林業センサス」（令和2.2.1）によると、本道の農業就業人口は、80,552人となっている。

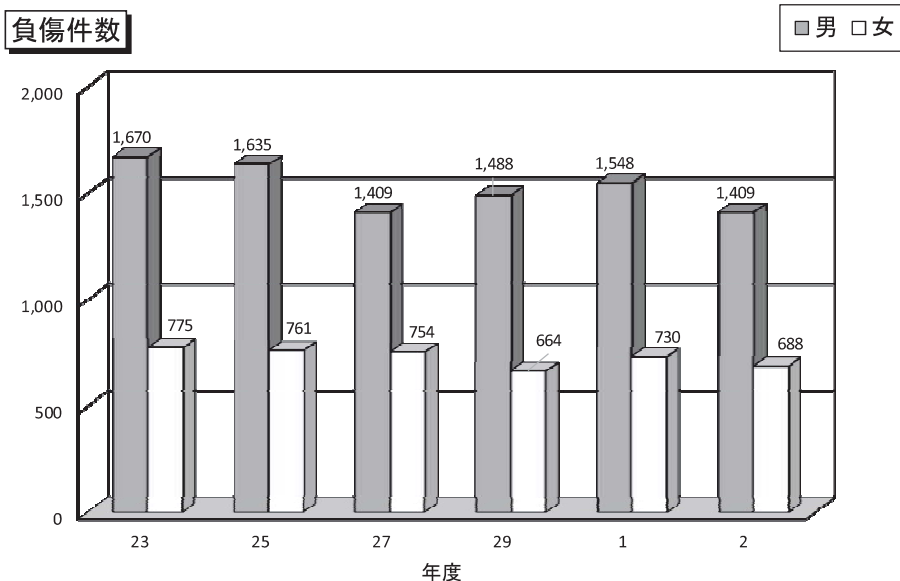
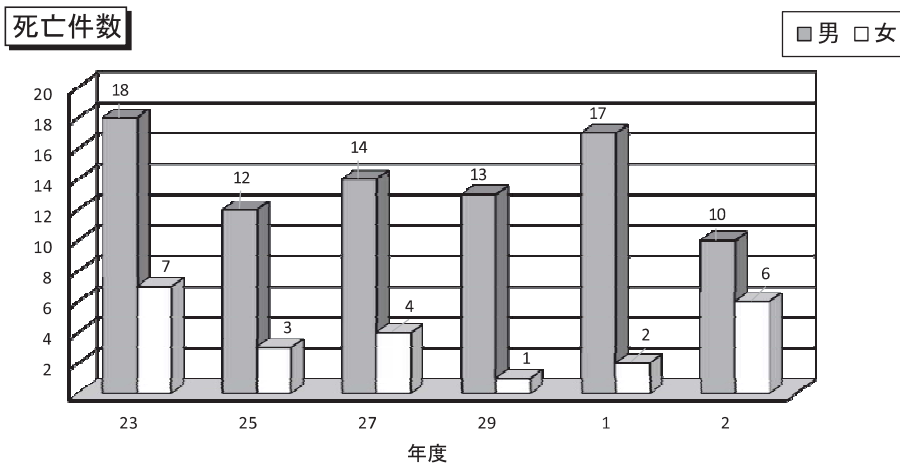
そのうち男女別では、男性が44,321人（55.0%）、女性が36,231人（45.0%）となっている。

#### (2) 男・女の事故の割合は男性が 67.2%、女性が 32.8%

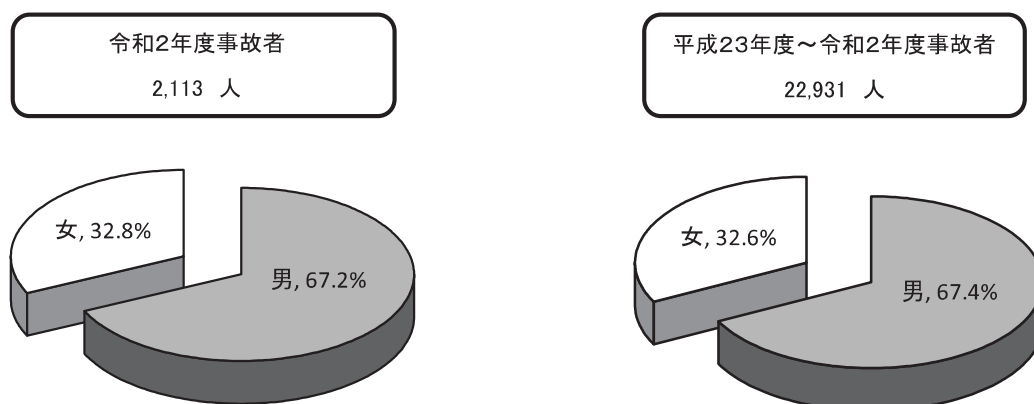
令和2年度の男女別の事故発生件数は、男性が1,419件、女性が694件となっている。

男女別では、男性が前年度の1,565件より146件減少している。また、女性も前年度の732件より38件減少している。

第2図 男女別・年度別農作業事故者の推移  
(平成23年度～令和2年度=10年間)



第3図 農作業事故者の男女の割合



### 3 年 齢

#### 高齢者（60歳以上）の死亡72.9%、負傷36.4%

##### (1) 農業就業人口、60歳以上トップ

農林水産省（北海道）「農林業センサス」による農業就業者の年齢別構成割合の5年間の推移をみると、平成27年の就業者は96,557人で、そのうち60歳以上は48,374人（50.1%）、30歳未満は6,289人（6.5%）となっている。

令和2年センサスでは80,552人で、そのうち60歳以上は42,009人（52.2%）、30歳未満は4,269人（5.3%）となっている。

##### (2) 死亡、60歳以上トップ

第2表のとおり、過去10年間の死亡177件のうち、60歳以上129件（72.9%）で最も多く、次いで50歳代25件（14.1%）、40歳代が10件（5.6%）、30歳代が7件（4.0%）の順となっている。

令和2年度では、死亡16件のうち、60歳以上が12件で75.0%を占め、その内70歳以上が7件（58.3%）となっている。

##### (3) 負傷、60歳以上トップ

第3表のとおり、過去10年間の負傷22,754件のうち、60歳以上8,280件（36.4%）で最も多く、次いで50歳代4,834件（21.2%）となっている。

令和2年度では、負傷2,097件のうち、60歳以上が787件（37.5%）で最も多く、次いで40歳代384件（18.3%）の順となっている。

第3表付①のとおり、年代別負傷者の構成比率の推移をみると、60歳以上が毎年トップとなっている。

##### (4) 女性、50歳代トップ

第3表付②のとおり、事故に占める女性の割合は、過去10年間のトータルでは、50歳代（40.0%）、10歳代（35.6%）、60歳以上（33.9%）、40歳代（32.8%）の順となっている。

令和2年度では、トップが50歳代（43.1%）で、次いで10歳代（38.4%）、60歳代（35.1%）、20歳代（32.4%）となっている。

第2表 年齢別、性別事故発生状況（死亡）

区分 年代	23			24			25			26		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
10歳未満				1		1						
10歳代										1		1
20歳代	1		1				1		1			
30歳代				1		1	1		1		1	1
40歳代	1	2	3				1	1	2		1	1
50歳代	6		6	2		2	1		1	3		3
60歳以上	10	5	15	14	2	16	8	2	10	12	2	14
計	18	7	25	18	2	20	12	3	15	16	4	20

区分 年代	27			28			29			30		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
10歳未満												
10歳代												
20歳代												
30歳代	2		2							2		2
40歳代							2		2	1		1
50歳代	3		3	1		1	2		2	4		4
60歳以上	9	4	13	10	1	11	9	1	10	8	3	11
計	14	4	18	11	1	12	13	1	14	15	3	18

区分 年代	1			2			計			%
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
10歳未満				1		1	2		2	1.1
10歳代							1		1	0.6
20歳代				1		1	3		3	1.7
30歳代							6	1	7	4.0
40歳代				1		1	6	4	10	5.6
50歳代	2		2		1	1	24	1	25	14.1
60歳以上	15	2	17	7	5	12	102	27	129	72.9
計	17	2	19	10	6	16	144	33	177	100.0



第3表 年齢別、性別事故発生状況（負傷）

区分 年代	23			24			25			26		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
10歳未満	3		3	1		1	1	1	2		1	1
10歳代	9	3	12	16	9	25	14	5	19	11	8	19
20歳代	217	50	267	212	65	277	193	61	254	146	44	190
30歳代	294	68	362	301	99	400	286	87	373	273	69	342
40歳代	245	134	379	245	129	374	227	111	338	225	121	346
50歳代	354	229	583	396	256	652	351	211	562	291	184	475
60歳以上	548	291	839	599	331	930	563	285	848	544	304	848
計	1,670	775	2,445	1,770	889	2,659	1,635	761	2,396	1,490	731	2,221

区分 年代	27			28			29			30		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
10歳未満	1		1	1		1		1	1			
10歳代	13	7	20	10	5	15	11	4	15	14	5	19
20歳代	136	57	193	159	65	224	144	54	198	136	73	209
30歳代	268	75	343	239	92	331	286	73	359	233	75	308
40歳代	223	128	351	251	118	369	221	111	332	262	110	372
50歳代	291	223	514	264	183	447	260	189	449	236	153	389
60歳以上	477	264	741	535	273	808	566	232	798	560	291	851
計	1,409	754	2,163	1,459	736	2,195	1,488	664	2,152	1,441	707	2,148

区分 年代	1			2			計			%
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
10歳未満				1		1	8	3	11	0.0
10歳代	6	11	17	8	5	13	112	62	174	0.8
20歳代	165	85	250	150	72	222	1,658	626	2,284	10.0
30歳代	294	94	388	260	87	347	2,734	819	3,553	15.6
40歳代	246	127	373	285	99	384	2,430	1,188	3,618	15.9
50歳代	262	158	420	195	148	343	2,900	1,934	4,834	21.2
60歳以上	575	255	830	510	277	787	5,477	2,803	8,280	36.4
計	1,548	730	2,278	1,409	688	2,097	15,319	7,435	22,754	100.0

第3表付① 年代別負傷者の構成比率

単位：%

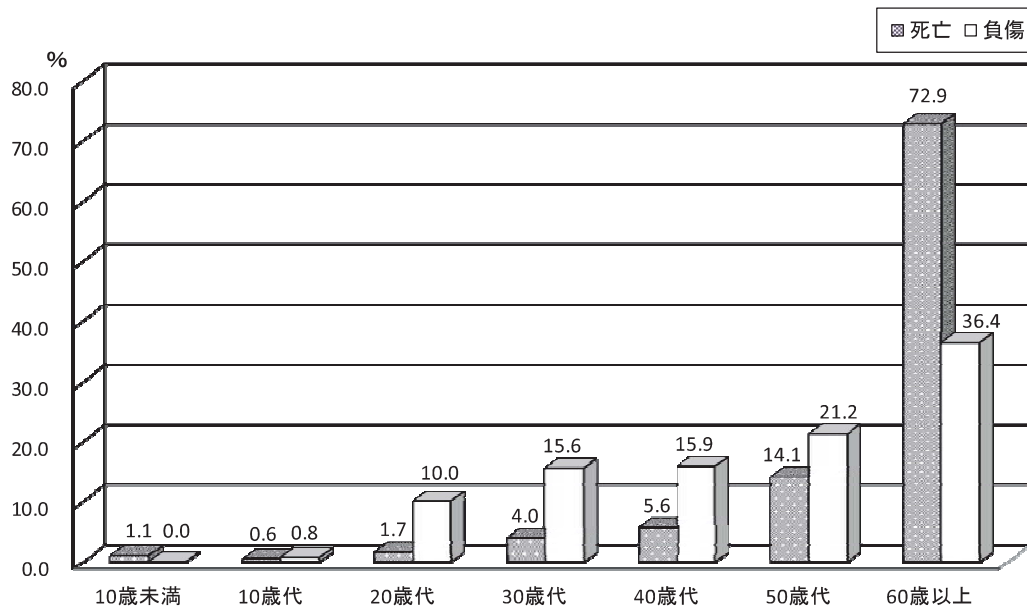
年代 \ 年度	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	10年間計
10歳未満	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
10歳代	0.4	0.9	0.7	0.8	0.9	0.6	0.6	0.8	0.7	0.6	0.7
20歳代	10.9	10.4	10.6	8.5	8.9	10.2	9.2	9.7	10.9	10.5	10.0
30歳代	14.8	15.0	15.5	15.3	15.8	15.0	16.6	14.3	17.0	16.5	15.6
40歳代	15.5	14.0	14.1	15.5	16.2	16.8	15.4	17.3	16.3	18.3	15.9
50歳代	23.8	24.5	23.4	21.3	23.7	20.3	20.8	18.1	18.4	16.3	21.2
60歳以上	34.3	34.9	35.3	38.1	34.2	36.8	37.0	39.6	36.4	37.5	36.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

第3表付② 年代別負傷事故に占める女性の割合

単位：%

年代 \ 年度	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	10年間計
10歳未満	-	-	50.0	100.0	-	-	100.0	-	-	-	27.3
10歳代	25.0	36.0	26.3	42.1	35.0	33.3	26.6	26.3	64.7	38.4	35.6
20歳代	18.7	23.4	24.0	23.1	29.5	29.0	27.2	34.9	34.0	32.4	27.4
30歳代	18.7	24.7	23.3	20.1	21.8	27.7	20.3	24.3	24.2	25.0	23.1
40歳代	35.3	34.4	32.8	34.9	36.4	31.9	33.4	29.5	34.0	25.7	32.8
50歳代	39.2	39.2	37.5	38.7	43.3	40.9	42.0	39.3	37.6	43.1	40.0
60歳以上	34.6	35.5	33.6	35.8	35.6	33.7	29.0	34.1	30.7	35.1	33.9
計	31.6	33.4	31.7	32.9	34.8	33.5	30.8	32.9	32.0	32.8	32.6

第4図 年代別事故発生状況の比較  
(平成23年度～令和2年度＝10年間)



#### 4 時期

##### 死亡、負傷とも春の作業期と秋の収穫期に多発

###### (1) 死亡は春の作業期から秋の収穫期にかけて多発

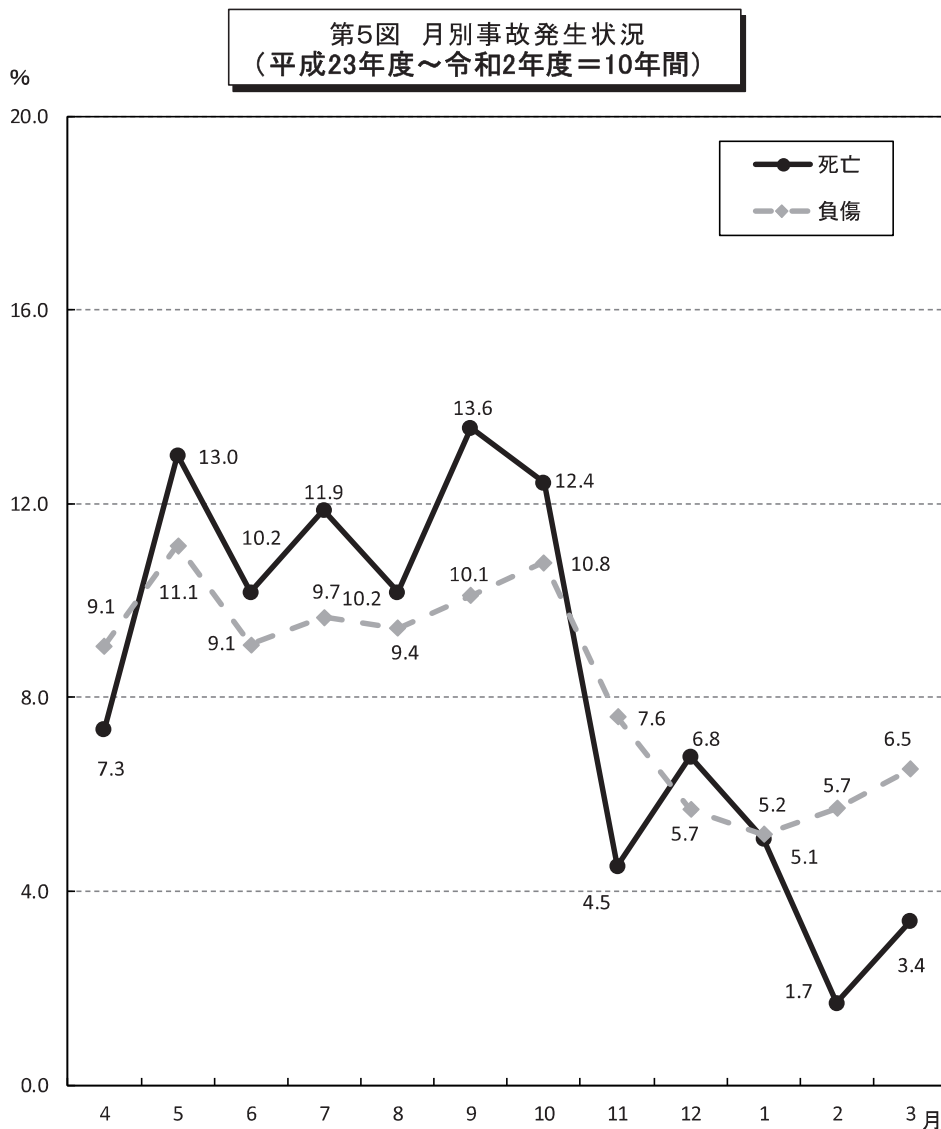
過去10年間のトータルでは、第4表のとおり9月が24件(13.6%)で最も多く、次いで5月23件(13.0%)、10月22件(12.4%)、7月が21件(11.9%)、6月・8月が各18件(10.2%)の順となっている。

令和2年度では、10月が4件(25.0%)で最も多く、次いで5月・9月が3件(18.8%)、7月が2件(12.5%)となっている。

###### (2) 負傷も春の作業期と秋の収穫期に多発

過去10年間のトータルでは、第5表のとおり5月が2,534件(11.1%)で最も多く、10月が2,455件(10.8%)、次いで9月2,298件(10.1%)の順となっている。

令和2年度では、9月が247件(11.8%)で最も多く、次いで10月246件(11.7%)、5月が218件(10.4%)、6月が200件(9.5%)、7月が195件(9.3%)の順となっている。



第4表 月別事故発生状況（死亡）

年度 月	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	計	%
4	1		1	2	2	2	2		2	1	13	7.3
5	6	2	2	3	2		1	1	3	3	23	13.0
6	1	3	4	3		1	2	2	1	1	18	10.2
7	5	2	3	1	1	2	1	3	1	2	21	11.9
8	4		2	1	4	2		2	2	1	18	10.2
9	1	4	1	3	1	2	1	5	3	3	24	13.6
10	5	1	1	1	4	1	2		3	4	22	12.4
11	1	1		2	2		1		1		8	4.5
12		3	1	3			1	2	2		12	6.8
1		2		1	1	1	1	2		1	9	5.1
2	1				1		1				3	1.7
3		2				1	1	1	1		6	3.4
計	25	20	15	20	18	12	14	18	19	16	177	100.0

第5表 月別事故発生状況（負傷）

年度 月	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	計	%
4	190	235	250	185	207	202	192	240	212	151	2,064	9.1
5	287	315	301	196	256	249	236	227	249	218	2,534	11.1
6	223	240	245	209	192	187	180	178	215	200	2,069	9.1
7	268	243	237	197	183	229	214	209	223	195	2,198	9.7
8	246	240	210	209	222	199	228	206	199	187	2,146	9.4
9	227	226	254	255	194	217	218	223	237	247	2,298	10.1
10	278	285	243	238	254	264	228	185	234	246	2,455	10.8
11	172	222	182	174	166	151	149	191	174	148	1,729	7.6
12	131	170	117	132	122	122	135	116	127	124	1,296	5.7
1	136	141	106	126	112	118	99	111	124	107	1,180	5.2
2	152	158	111	134	112	120	127	125	127	134	1,300	5.7
3	135	184	140	166	143	137	146	137	157	140	1,485	6.5
計	2,445	2,659	2,396	2,221	2,163	2,195	2,152	2,148	2,278	2,097	22,754	100.0

## 5 発生場所

### 死亡は圃場、敷地内と道路、負傷は畜舎、圃場と敷地内

(1) 死亡は圃場（水田・畑・牧草地）、敷地内と道路（農道・公道・道路取付口）で 66.7%

過去 10 年間のトータルでは、第 6 表のとおり死亡事故 177 件のうち、水田・畑・牧草地などの圃場が 53 件（30.0%）、敷地内が 40 件（22.6%）、農道・公道・道路取付口などの道路が 25 件（14.1%）、で全体の 66.7%を占めている。

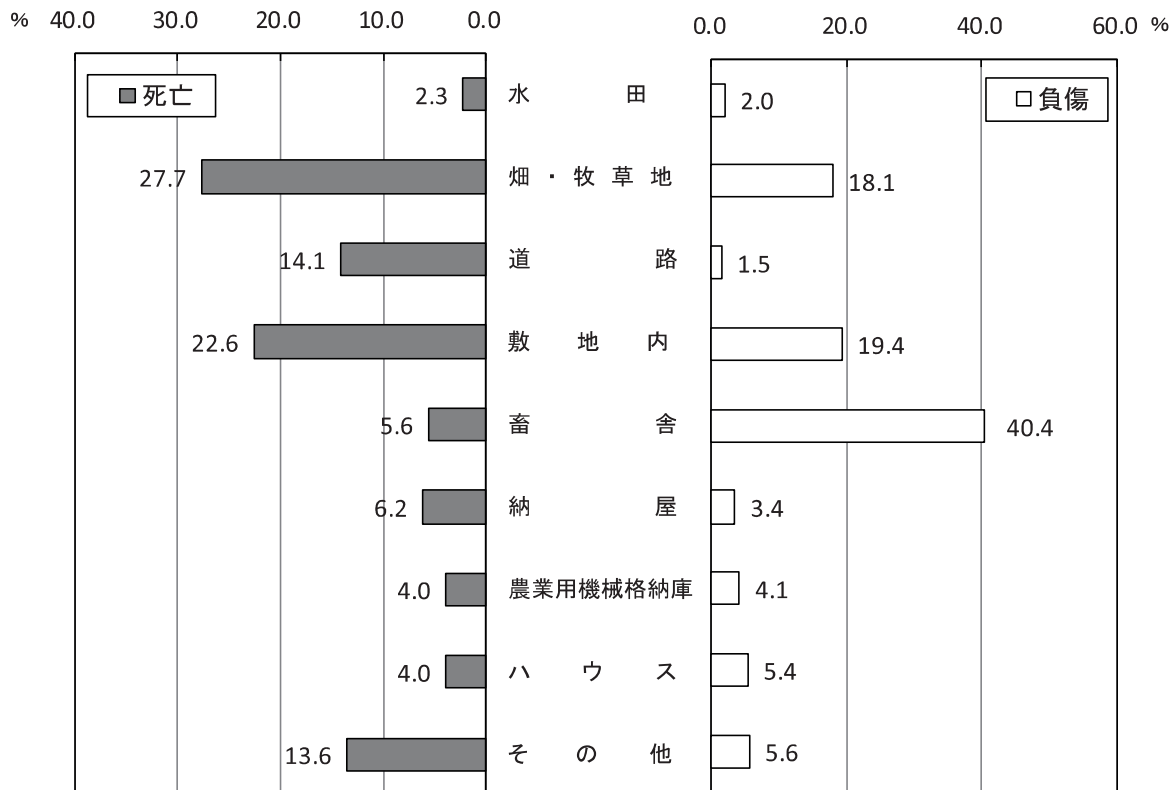
令和 2 年度では、16 件のうち圃場（畑・牧草地）が 6 件（37.5%）、敷地内が 3 件（18.8%）、農道公道・畜舎が各 2 件（12.5%）で全体の 81.3%を占めている。

(2) 負傷は、畜舎、圃場（水田・畑・牧草地）と敷地内で 79.9%

過去 10 年間のトータルでは、第 7 表のとおり負傷事故 22,754 件のうち畜舎が 9,201 件（40.4%）で最も多く、次いで圃場（水田・畑・牧草地）が 4,556 件（20.0%）、敷地内が 4,424 件（19.4%）で全体の 79.9%を占めている。

令和 2 年度では、2,097 件のうち畜舎 847 件（40.4%）で最も多く、次いで圃場が 424 件（20.2%）、敷地内が 419 件（20.0%）、となっている。

第6図 場所別事故発生状況の比較  
(平成23年度～令和2年度=10年間)



第6表 場所別事故発生状況（死亡）

場所	年度										計	%
	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2		
水田			1			2	1				4	2.3
畑	11	5	3	6	3	1	3	6	2	5	45	25.4
牧草地		1		1		1				1	4	2.3
農道	1		1		1	1	1		4		9	5.1
公道	1	1	2		3	1	2	1	2	2	15	8.5
道路取付口			1								1	0.6
敷地内	5	5	1	6	2	1	1	9	7	3	40	22.6
山林						1			1		2	1.1
畜舎			2	1	1		2	2		2	10	5.6
サイロ			1	1					1		3	1.7
牧草収納舎												
納屋	1	3			3	1	2			1	11	6.2
農業機械格納庫	1	1	1	2	1				1		7	4.0
ハウス	2			1	1	2			1		7	4.0
用水路		1	1	1							3	1.7
堆肥場					1		1				2	1.1
不明										1	1	0.6
その他	3	3	1	1	2	1	1			1	13	7.3
計	25	20	15	20	18	12	14	18	19	16	177	100.0

第7表 場所別事故発生状況（負傷）

場所	年度										計	%
	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2		
水田	70	61	63	39	34	30	39	41	42	26	445	2.0
畑	418	413	391	340	359	367	358	327	356	370	3,699	16.3
牧草地	72	50	46	43	35	29	39	43	27	28	412	1.8
農道	18	23	21	20	13	17	15	27	17	26	197	0.9
公道	7	20	16	13	10	21	7	11	20	18	143	0.6
道路取付口		1		3	2	1	4	2	2	1	16	0.1
敷地内	451	551	507	488	404	374	380	397	453	419	4,424	19.4
山林	2	3	1	2	1	2	3	3		2	19	0.1
畜舎	885	959	914	873	917	957	943	915	991	847	9,201	40.4
サイロ	6	4	14	10	10	10	10	9	16	7	96	0.4
牧草収納舎	16	13	18	24	14	12	14	18	16	19	164	0.7
納屋	124	155	106	55	56	60	72	57	47	53	785	3.4
農業機械格納庫	115	102	88	100	100	98	71	87	84	96	941	4.1
ハウス	143	188	123	127	110	113	97	97	108	112	1,218	5.4
用水路	10	7	7	3	1	4	5	2	7	6	52	0.2
堆肥場	4	7	7	7	1	6	7	5	7	3	54	0.2
不明	9	14	4	2	9	7	13	11	2	5	76	0.3
その他	95	88	70	72	87	87	75	96	83	59	812	3.6
計	2,445	2,659	2,396	2,221	2,163	2,195	2,152	2,148	2,278	2,097	22,754	100.0

## 6 発生時間帯

### 危険時間帯は、午後2時～午後4時台と午前10時～午後12時台

(1) 死亡は、午後2時～4時台と午前10時～12時台に多発

10年間のトータルでは、第8-1表のとおり177件のうち10時が18件(10.2%)で最多発生時間となっており、次いで14時が17件(9.6%)、15時・16時が各14件(7.9%)、11時・12時が各13件(7.3%)となっている。

令和2年度では、16件のうち11時が4件(25.0%)で最多発生時間となっており、15時が3件(18.8%)発生している。

第8-1表 時刻別事故発生状況(死亡)

年度 時刻	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	合計	%
0												
1												
2												
3												
4				2							2	1.1
5										1	1	0.6
6	1	1	1	1				1	2		7	4.0
7		1	1	2		1	1		1		7	4.0
8		1	2	2	1		1	1			8	4.5
9	3	1	1		1	1	1			1	9	5.1
10	1		3	3	2	1		5	2	1	18	10.2
11	3					1	1		4	4	13	7.3
12	4	4	1	2				1		1	13	7.3
13	1	1		1	1		2	2	1	1	10	5.6
14	2	2	1	1	5	2	3			1	17	9.6
15	2	1	1	3	2		1		1	3	14	7.9
16	1		2	2	2		2	1	4		14	7.9
17	1	1	1		2		1	1	2		9	5.1
18	1	2	1					1	2		7	4.0
19	1					1					2	1.1
20					1			1			2	1.1
21				1		1		1			3	1.7
22												
23												
不明	4	5			1	4	1	3		3	21	11.9
合計	25	20	15	20	18	12	14	18	19	16	177	100.0

(2) 負傷は、午前10時～11時台と午後3時～4時台に多発

10年間のトータルでは、第8-2表のとおり10時が2,592件(11.4%)で最多発生時間、次いで11時の2,262件(9.9%)、16時の2,046件(9.0%)、15時の1,913件(8.4%)、9時の1,800件(7.9%)、8時の1,780件(7.8%)となっている。

令和2年度では、10時が233件(11.1%)で最多発生時間、次いで11時が216件(10.3%)、16時が200件(9.5%)、9時が190件(9.1%)、となっている。

また、男女別発生状況では、第9表のとおり男女とも10時～11時で最多発生時間、次いで14時～17時、8時～9時、7時の順となっている。

第8-2表 時刻別事故発生状況(負傷)

年度 時刻	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	合計	%
0	2		9		2	17	1	1			32	0.1
1		1			1		2			3	7	0.0
2		4	2		2		1	2	1	1	13	0.1
3	1	4	1	2	3	2	3	5	3	5	29	0.1
4	14	8	17	12	7	13	21	18	14	17	141	0.6
5	49	66	50	56	46	62	50	44	62	64	549	2.4
6	99	91	130	97	116	137	98	114	117	94	1,093	4.8
7	164	162	148	148	137	148	150	156	164	136	1,513	6.6
8	196	202	165	178	173	155	175	174	179	183	1,780	7.8
9	184	229	174	169	178	167	171	166	172	190	1,800	7.9
10	292	321	299	258	251	209	238	221	270	233	2,592	11.4
11	225	281	263	206	200	195	206	231	239	216	2,262	9.9
12	51	73	64	67	44	63	67	55	49	51	584	2.6
13	109	114	108	115	87	97	83	92	96	81	982	4.3
14	195	213	164	170	175	173	170	156	152	148	1,716	7.5
15	248	210	199	203	163	171	186	169	186	178	1,913	8.4
16	228	239	195	195	206	205	194	180	204	200	2,046	9.0
17	159	182	200	154	160	170	138	155	162	117	1,597	7.0
18	131	133	111	97	116	127	101	115	104	80	1,115	4.9
19	53	71	56	57	57	46	45	45	51	51	532	2.3
20	23	20	27	16	16	23	21	15	11	15	187	0.8
21	8	13	5	4	4	6	10	9	8	5	72	0.3
22	3	7	6	6	7	6	2	4	4	5	50	0.2
23	1	4	2	2	2	3	3	3	3	2	25	0.1
不明	10	11	1	9	10		16	18	27	22	124	0.5
合計	2,445	2,659	2,396	2,221	2,163	2,195	2,152	2,148	2,278	2,097	22,754	100.0



第9表 男女別時刻別負傷事故発生状況

年度 時刻	23		24		25		26		27		28	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0	1	1			8	1			1	1	13	4
1				1					1			
2			2	2	1	1			1	1		
3		1	3	1	1			2	2	1	1	1
4	6	8	8		8	9	5	7	5	2	6	7
5	27	22	39	27	24	26	29	27	23	23	34	28
6	63	36	53	38	79	51	60	37	57	59	69	68
7	110	54	115	47	88	60	89	59	84	53	81	67
8	132	64	137	65	123	42	115	63	108	65	110	45
9	124	60	159	70	124	50	116	53	120	58	119	48
10	212	80	217	104	217	82	176	82	178	73	142	67
11	168	57	188	93	198	65	136	70	145	55	143	52
12	36	15	54	19	50	14	48	19	32	12	53	10
13	82	27	76	38	81	27	80	35	65	22	71	26
14	145	50	147	66	125	39	123	47	123	52	134	39
15	176	72	153	57	126	73	149	54	111	52	122	49
16	145	83	147	92	134	61	138	57	137	69	133	72
17	103	56	108	74	126	74	100	54	100	60	102	68
18	83	48	82	51	62	49	66	31	61	55	76	51
19	28	25	50	21	29	27	34	23	33	24	27	19
20	13	10	10	10	21	6	11	5	9	7	14	9
21	5	3	8	5	4	1	2	2	3	1	1	5
22	2	1	5	2	5	1	5	1	2	5	5	1
23	1		2	2	1	1	1	1	2		3	
不明	8	2	7	4		1	7	2	6	4		
合計	1,670	775	1,770	889	1,635	761	1,490	731	1,409	754	1,459	736

年度 時刻	29		30		1		2		合計				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	%	女	%	
0	1		1						25	0.2	7	0.1	
1		2						2	1	3	0.0	4	0.1
2	1		1	1	1			1	7	0.0	6	0.1	
3	2	1	2	3	1	2	3	2	15	0.1	14	0.2	
4	13	8	10	8	8	6	9	8	78	0.5	63	0.8	
5	32	18	25	19	33	29	39	25	305	2.0	244	3.3	
6	53	45	75	39	67	50	62	32	638	4.2	455	6.1	
7	99	51	101	55	110	54	83	53	960	6.3	553	7.4	
8	127	48	112	62	106	73	117	66	1,187	7.7	593	8.0	
9	114	57	117	49	127	45	140	50	1,260	8.2	540	7.3	
10	173	65	164	57	201	69	155	78	1,835	12.0	757	10.2	
11	147	59	155	76	179	60	152	64	1,611	10.5	651	8.8	
12	53	14	39	16	32	17	39	12	436	2.8	148	2.0	
13	63	20	71	21	72	24	56	25	717	4.7	265	3.6	
14	127	43	105	51	101	51	108	40	1,238	8.1	478	6.4	
15	127	59	118	51	136	50	128	50	1,346	8.8	567	7.6	
16	136	58	117	63	142	62	134	66	1,363	8.9	683	9.2	
17	93	45	91	64	101	61	74	43	998	6.5	599	8.1	
18	59	42	77	38	62	42	44	36	672	4.4	443	6.0	
19	30	15	27	18	33	18	31	20	322	2.1	210	2.8	
20	18	3	9	6	7	4	11	4	123	0.8	64	0.9	
21	6	4	8	1	5	3	3	2	45	0.3	27	0.4	
22	1	1	3	1	1	3	3	2	32	0.2	18	0.2	
23	3		2	1	3		2		20	0.1	5	0.1	
不明	10	6	11	7	20	7	14	8	83	0.5	41	0.6	
合計	1,488	664	1,441	707	1,548	730	1,409	688	15,319	100.0	7,435	100.0	

第 10-1 表 令和 2 年度月別・時刻別事故発生状況（死亡）

時刻	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10 月	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0														
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9												1		
10														1
11	1		1				2							
12													1	
13				1										
14												1		
15												1	1	1
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
不明			1		1				1					
計	1		2	1	1		2		1			3	2	2
合計	1		3		1		2		1			3		4

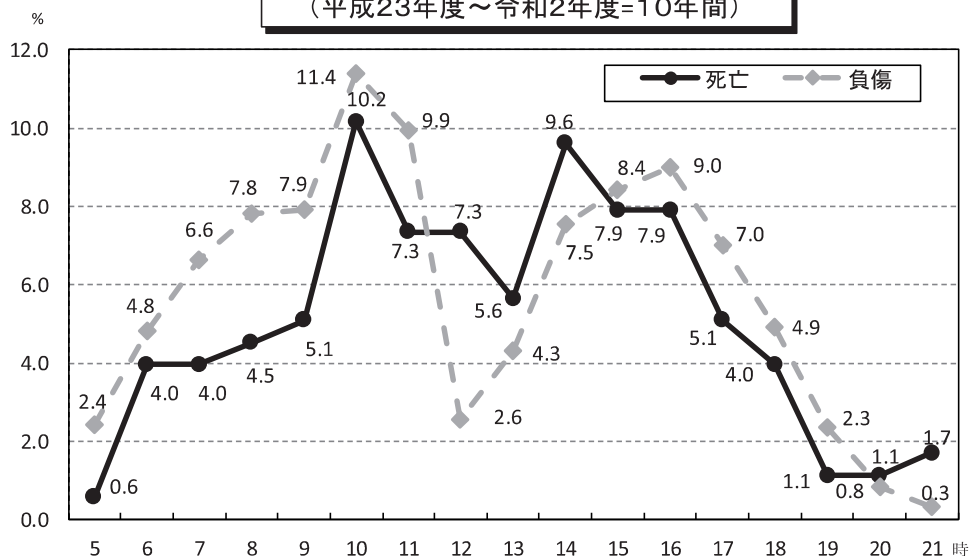
時刻	11 月		12 月		1 月		2 月		3 月		計		合計	比率
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
0														
1														
2														
3														
4														
5					1						1		1	6.3
6														
7														
8														
9												1	1	6.3
10												1	1	6.3
11											4		4	25.0
12											1		1	6.3
13												1	1	6.3
14												1	1	6.3
15											1	2	3	18.8
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
不明											3		3	18.8
計					1						10	6	16	100.0
合計					1						16		16	100.0

第10-2 令和2年度月別・時刻別事故発生状況（負傷）

時刻	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0														
1	1					1	1							
2														
3														
4	2		2		1						1	1	1	
5	6		4	4	4	5	3	1	5	2	2	3	2	2
6	5	2	8	6	5	2	6	6	7	3	6	3	10	1
7	4	2	9	2	9	13	6	4	5	1	15	6	8	8
8	10	1	11	7	7	4	6	5	12	11	11	8	12	8
9	13	3	14	3	13	4	13	5	8	6	19	5	23	9
10	15	6	11	10	10	9	13	8	17	4	17	7	17	10
11	10	2	21	7	9	7	14	7	19	8	15	8	22	6
12	3		2		5	1	1	2	2	2	2	2	9	
13	2	1	4	3	7	2	8	2	7	4	6	4	9	4
14	15	3	7	10	12	3	15	2	8	3	16	7	15	6
15	14	3	16	5	19	3	14	5	10	7	17	8	10	4
16	13	3	15	6	16	6	16	3	4	7	15	9	15	8
17	1	3	7	8	7	1	7	3	9	3	12	5	7	3
18	2	2	2	4	4	3	6	4	4	4	4	1	6	3
19	1		3	2	2	1	2	3	2		5		2	3
20			2		1				1	1	1	1	2	
21	1		1									1		
22									1		1			
23					1									
不明	1	1	2		2	1	2	2			1	2		1
計	119	32	141	77	133	67	133	62	121	66	166	81	170	76
合計	151		218		200		195		187		247		246	

時刻	11月		12月		1月		2月		3月		計		合計	比率
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
0														
1											2	1	3	0.1
2						1						1	1	0.0
3	1		1	1	1			1			3	2	5	0.2
4	1	2		1		2	1		1	1	9	8	17	0.8
5	3		3	2	1	2	4	3	2	1	39	25	64	3.1
6	5	3	3		2	1	2	3	3	2	62	32	94	4.5
7	5	3	6	3	7	4	3	7	6		83	53	136	6.5
8	8	3	7	5	7	4	13	7	13	3	117	66	183	8.7
9	9	3	8	5	6	1	11	3	3	3	140	50	190	9.1
10	16	4	8	5	8	3	10	3	13	9	155	78	233	11.1
11	8	4	14	7	8	2	5	2	7	4	152	64	216	10.3
12	3	3	3		1	1	4	1	4		39	12	51	2.4
13	5	2	2		3	1	3			2	56	25	81	3.9
14	1	2	4		6	2	4	1	5	1	108	40	148	7.1
15	4	8	6		2	1	6	1	10	5	128	50	178	8.5
16	13	9	3	2	5	4	9	3	10	6	134	66	200	9.5
17	6	2	4	6	5	3	5	2	4	4	74	43	117	5.6
18	4	4	2	3	3	2	4	3	3	3	44	36	80	3.8
19	1	1	3	2	2	1	2	5	6	2	31	20	51	2.4
20			1	1	1		1		1	1	11	4	15	0.7
21				1					1		3	2	5	0.2
22				1	1	1					3	2	5	0.2
23					1						2		2	0.1
不明	2		1		1		1	1	1		14	8	22	1.0
計	95	53	79	45	71	36	88	46	93	47	1,409	688		
合計	148		124		107		134		140		2,097		2,097	100.0

第7図 時刻別事故発生状況の比較  
(平成23年度～令和2年度=10年間)



## 7 事故の対象物件等

### 死亡は農業機械、負傷は家畜が最多

#### (1) 死亡事故の75.1%は農業機械による事故

10年間のトータルは第8図、年次別の実数は第11表のとおりである。

死亡事故では、177件のうち農業機械によるものが133件(75.1%)で最も多く、次いで高所転落が19件(10.7%)、家畜が6件(3.4%)、蜂が1件(0.6%)となっている。

農業機械別では、死亡事故133件のうちトラクターによるものが52件(39.1%)で最も多く、次いでトラック類(トレーラー等含む)が17件(12.8%)、ショベルローダ類15件(11.3%)、ハーベスター類・耕うん機(ロータリー含む)が各8件(6.0%)、コンバイン・マニアスプレッダーが各3件(2.3%)の順となっている。

令和2年度は、死亡事故16件のうちトラクターが6件(37.5%)で最も多く、次いで高所転落が3件(18.8%)の順となっている。

農作業事故者数に占める死亡者数は、26頁のとおりで過去10年間では129人に1人、令和2年度では132人に1人の割合で発生している。

#### (2) 負傷事故の36.5%は家畜(牛・馬・豚)による事故

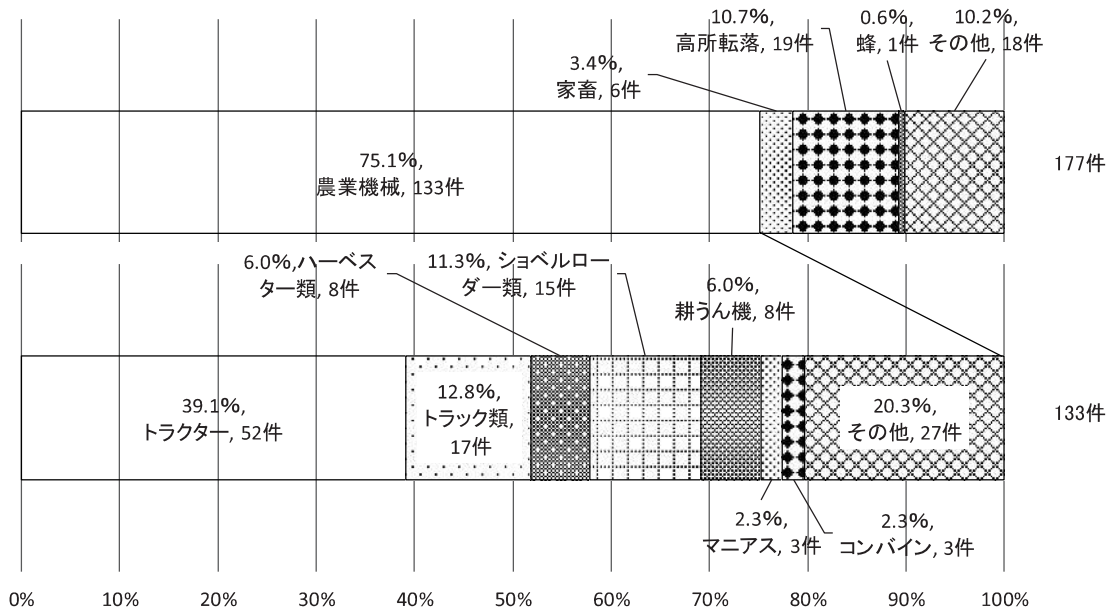
10年間のトータルは第9図、年次別の実数は第11表のとおりである。

負傷事故では、22,754件のうち家畜(牛・馬・豚)によるものが8,314件(36.5%)で最も多く、次いで農業機械が6,753件(29.7%)、人の転倒が2,149件(9.4%)、高所転落が1,569件(6.9%)の順となっている。

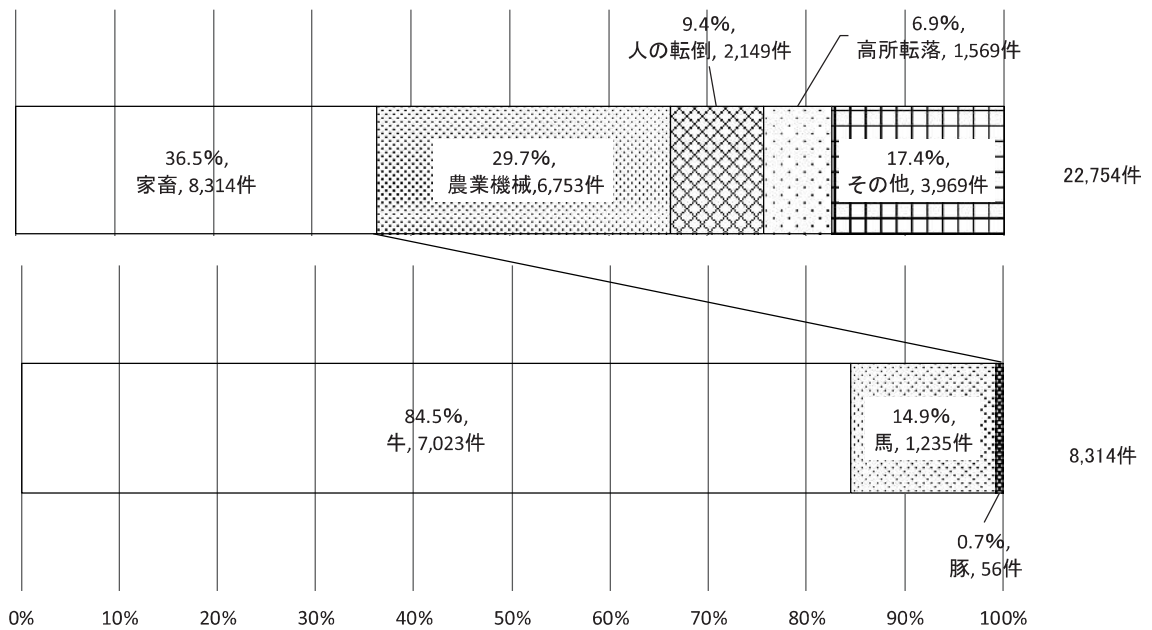
家畜別では、負傷事故8,314件のうち牛によるものが7,023件(84.5%)で最も多く、次いで馬が1,235件(14.9%)、豚が56件(0.7%)の順となっている。

令和2年度は、負傷事故2,097件のうち家畜(牛・馬・豚)によるものが798件(38.1%)で最も多く、次いで農業機械が617件(29.4%)、人の転倒が194件(9.3%)、高所転落が124件(5.9%)の順となっている。

第8図 原因別事故構成比率（死亡）  
（平成23年～令和2年度＝10年間）



第9図 原因別事故構成比率（負傷）  
（平成23年～令和2年度＝10年間）



(3) 原因別事故件数の推移

過去 10 年間の原因別事故件数は、平成 22 年以降、家畜の事故が農業機械の事故を大幅に上回って推移している。

家畜では、牛との接触によるものが最も多く、家畜に踏まれる、蹴られる、挟まれる、突かれるなどにより毎年 700 件前後（30.6%）で推移している。

農業機械では、トラクターの操作中に事故に遭うケースが多く見受けられ、トラクターの横転転落、機械から物を落とす・物に挟む、機械から落下するなどにより 700 件前後（30.0%）で推移し、横ばいの傾向を示している。

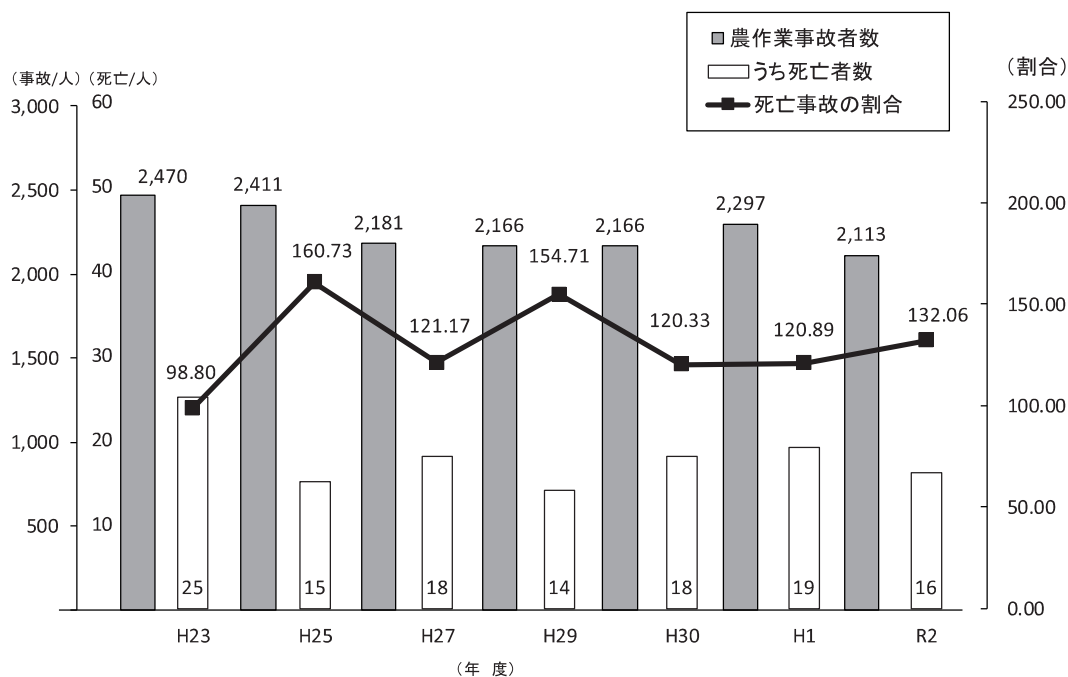
その他では、人の転倒が 200 件前後（9.4%）でほぼ横ばいで推移している。また、高所転落も 150 件前後（6.9%）でほぼ横ばい状況で推移している。

【年度別農作業事故と死亡者数の割合】

〔年度別農作業事故と死亡者数の割合〕

年 度	農作業事故者数	うち死亡者数	死亡事故の割合	
			割合	人につき 1人死亡
23	2,470	25	98.80	人につき 1人死亡
24	2,679	20	133.95	〃
25	2,411	15	160.73	〃
26	2,241	20	112.05	〃
27	2,181	18	121.17	〃
28	2,207	12	183.92	〃
29	2,166	14	154.71	〃
30	2,166	18	120.33	〃
1	2,297	19	120.89	〃
2	2,113	16	132.06	〃
計	22,931	177	129.55	〃

年度別作業事故と死亡者数の推移



第 11 表 原因別事故発生状況の推移

作業機	23		24		25		26		27		28		29		30		1		2		計		合計	%
	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷		
トラクター	5	178	6	196	3	133	4	149	4	127	7	113	4	134	5	99	8	179	6	142	52	1,450	1,502	6.6
電動機(モーター)		1		6		2		2		2		2				3		2		1		21	21	0.1
発動機(エンジン)				1		2		1		1						1		1				7	7	0.0
ブラウ				3		4		3		6		3		4		7		1		7		38	38	0.2
サブソイラー・ 心土破砕機		2		3		5		5		5		6		4		4		5				39	39	0.2
ディスクハロ (パワーディスク)		1		2				1		2		3		1		2				1		13	13	0.1
ロータリー	1	6	1	9		11		19		9		13		7	1	11	1	14		6	4	105	109	0.5
耕うん機	1	4		10	1	1		2		4		3		1		5		1	1	3	3	34	37	0.2
テラー	1	6		3		4		2		2		5		2		1		1		3	1	29	30	0.1
コーンプランタ		2		3						1		2		2		2		2				14	14	0.1
ビーンプランタ		2				2		1		2		2		4		4		4		5		26	26	0.1
ビートプランタ		5		1		3		3		2				3		5		4		1		27	27	0.1
ポテトプランタ		9		5		11		9		9		11		12		15		6		7		94	94	0.4
ドリル		7		8		5		3		5		3		4		2		4		3		44	44	0.2
マニアスプレッター	2	5		3		5	1	1		2		3				5		5			3	29	32	0.1
スラリスプレッター (尿散布機)		1		1				1						2		3						8	8	0.0
ブロードカスター		7		5		6		5		7		4		7		4		2		6		53	53	0.2
ライムソワー		1		1		2		1										1				6	6	0.0
代かき機						1		3				1										5	5	0.0
田植機		6		5		7		3		3		2		8		4	1	5		2	1	45	46	0.2
ビート移植機		6	1	6		5		7		14		21		10	1	12		7		7	2	95	97	0.4
玉ネギ移植機		1		1		1		1						2		2				2		10	10	0.0
鎮圧機(ローラ)		1		1								1				2		1		3		9	9	0.0
均平機(スプリングハ ロー)						1		2		1				1				1		2		8	8	0.0
カルチベータ		4		7		5		3		2		3		4		5		7		4		44	44	0.2
培土機				1		2										2						5	5	0.0
スプレーヤー		9		3		17		22		16		15		14	2	10		10		11	2	127	129	0.6
動力噴霧器		5		2		1		6		8		9		5		6		6		4		52	52	0.2
動力散粉機		2		1		1				2				1						2		9	9	0.0
人力(背負) 防除機		4		4				2		2		1		4		5		5		1		28	28	0.1
バインダー																		1				1	1	0.0
自脱型コンバイン		10		4		9		7		9		5		8		6		7		5		70	70	0.3

年度 作業機	23		24		25		26		27		28		29		30		1		2		計		合計	%
	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷		
普通型コンバイン		17		12		13		19	2	14	1	10		20		8		10		11	3	134	137	0.6
ビーンハーベスタ		6		6		8		5		5		5		2		1		2		2		42	42	0.2
ビートハーベスタ (タツバ)		3		5		8	1	9		15		17		10		8		7	1	13	2	95	97	0.4
ポテトハーベスタ (ディガ)	3	38	1	39		42		29		43		43		33		28		26		39	4	360	364	1.6
玉ネギハーベスタ	1	9		11		10		13		7		17		17		22		11		15	1	132	133	0.6
レシプロ型モータ																								
ディスクモータ		1		4		2	1	1		5		3				2					1	18	19	0.1
モアコンディショナ		3		3		4		3	1	2		2		3		7		1		1	1	29	30	0.1
ロータリ型 レーキ・テツダ		1				1		2		1		2		1		1		1		3		13	13	0.1
その他の レーキ・テツダ										1		3		2		1				2		9	9	0.0
グラスチョッパー						1				2		1		1		2		2		1		10	10	0.0
コンパクトベラー																								
ロールベラー		9	1	6	1	14		5		3		8		8		6		5		7	2	71	73	0.3
ベールローダ										1				1								2	2	0.0
コーンハーベスタ		1		2		2		2		2		2		1		2		1				15	15	0.1
フォーレージ ハーベスタ		4		3		2				3				1		1		1	1	1	1	15	16	0.1
ヘーエレベーター						1		1														2	2	0.0
フォーレージ フロアー																								
吹上カッタ																								
ダンブトラック		17	1	24		12		21	1	14		19		15		11	1	14		20	3	167	170	0.7
トレーラー		4		2		5	1	5		5		9		1		3		1		3	1	38	39	0.2
ダンブトレーラー	1							2		1		1		2				1		1	1	8	9	0.0
ロードワゴン		1		1																		2	2	0.0
ピックアップワゴン																								
ショベルローダ・ フォークリフト	1	56		55	1	50	2	63	1	57		41	3	62	2	43	4	59	1	53	15	539	554	2.4
一輪車		9		6			3		5		2		1					2		3		31	31	0.1
二輪車		1				3		2		2		1				1				5		15	15	0.1
フロントローダー		3		6		9		5		2		5		5		3		1		4		43	43	0.2
バックレーキ		2	1			2		1		2		1		1							1	9	10	0.0
トラック	2	65	1	55	3	59	4	49		53	1	65		57	1	54		58		44	12	559	571	2.5
ローリ類																1						1	1	0.0
農用ブルドーザー		1										1		1						1		4	4	0.0



作業機	年度		23		24		25		26		27		28		29		30		1		2		計		合計	%
	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷	死亡	負傷		
スレッシャー		2		4		4		4		3		5		1		3		3		3		3		32	32	0.1
スイートコーン ハーベスタ				2						2				1		1				1				7	7	0.0
脱穀機(自脱)		1		2		3		1		4		1		1		1		1		1		2		17	17	0.1
サイレージ用 ディストリビュータ										2						1						1		1	1	0.0
サイレージ用 アンローダ				2						2					1		1						6	6	0.0	
もみすり機		2		3		1		1		1				1		1				1		1		10	10	0.0
乾燥機		2		3		10		7		2		5		6		6		15		6		6		62	62	0.3
刈払機		33		25		26		28		13		13	1	20		21		19		19		17	1	215	216	0.9
自動穴掘機		2						1															3	3	0.0	
溝堀機 (トレンチャー)								1												1			2	2	0.0	
野菜掘取機		12		13		9		10		15		12		10		10		13		13		5		109	109	0.5
野菜洗浄機								1					4										5	5	0.0	
米ほか選別機		9		10		2		7		7		8		3		7		5		8		8		66	66	0.3
除雪機	1	9		9		7		3		3	1	1		3		3		3	1			9	3	47	50	0.2
チェンソー		20		17		18		17		21		19		9		16		1	11		16		1	164	165	0.7
その他	2	125		95	1	133		83	3	89		133		88	4	154		109		2	90	12	1,099	1,111	4.8	
農業機械小計	21	753	13	720	10	707	14	670	12	647	10	690	8	634	16	663	17	652	12	617	133	6,753	6,886	30.0		
牛		665		754	1	715	1	681		703		744	1	697	1	635		762	1	667	5	7,023	7,028	30.6		
馬	1	143		140		122		138		112		90		112		129		123		126	1	1,235	1,236	5.4		
豚		8		7		4		5		1		2		7		10		7		5		5		56	56	0.2
高所転落		246	3	244	2	178	2	131	2	136	1	132	4	124	1	127	1	127	3	124	19	1,569	1,588	6.9		
人の転倒		211		276		237		210		182		207		210		212		210		194		2,149	2,149	9.4		
蜂		46		27		36		24	1	30		26		30		36		28		42	1	325	326	1.4		
農薬中毒 (殺虫・殺菌・除草)		1				2		2				2		1		1		1					10	10	0.0	
農薬不明		1		8				2						2		4		3		5			25	25	0.1	
鎌		29		30		23		24		23		18		17		23		28		23		23		238	238	1.0
鍬		3		3				1		1				1		1				4			14	14	0.1	
小農具その他		94		90		70		60		58		51		62		66		50		56			657	657	2.9	
小農具不明				6				5		5		7		3		2		3		1			32	32	0.1	
その他	3	235	4	343	2	293	3	234	3	231	1	201	1	219		202	1	264		222	18	2,444	2,462	10.7		
不明		10		11		9		34		34		25		33		37		20		11			224	224	1.0	
その他小計	4	1,692	7	1,939	5	1,689	6	1,551	6	1,516	2	1,505	6	1,518	2	1,485	2	1,626	4	1,480	44	16,001	16,045	70.0		
合計	25	2,445	20	2,659	15	2,396	20	2,221	18	2,163	12	2,195	14	2,152	18	2,148	19	2,278	16	2,097	177	22,754	22,931	100.0		

## 8 事故の部位

### 死亡は頭（顔）、負傷は足・手（指含む）

(1) 死亡は頭（顔）が31.3%

令和2年度の死亡事故16件のうち、第13表のとおり頭（顔）が5件（31.3%）、胸（肋骨）が2件（12.5%）となっている。

(2) 負傷は足・手（指含む）で48.5%

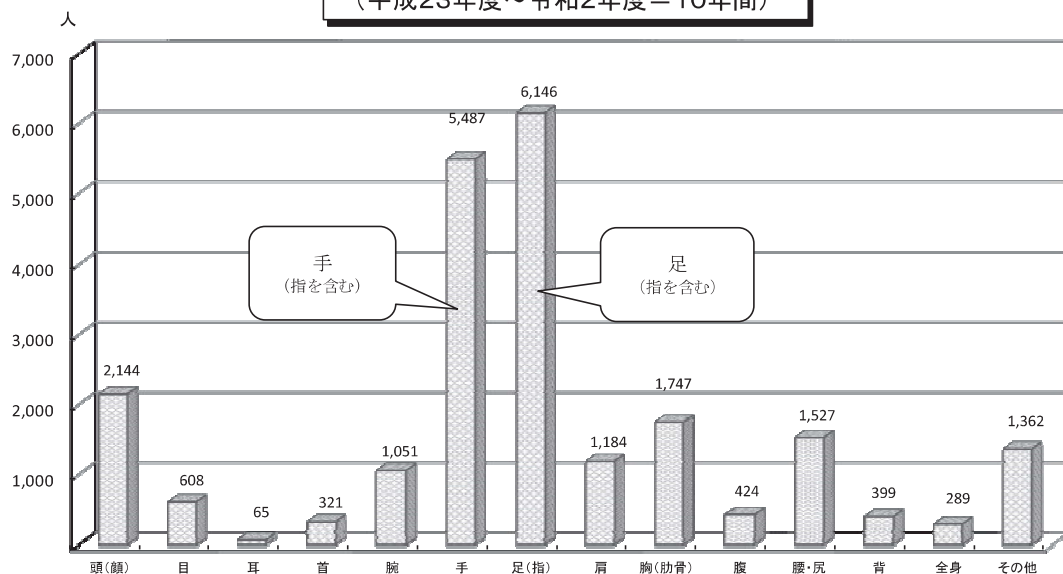
過去10年間のトータルでは、第12表のとおり足（指含む）6,146件（27.0%）、手（指含む）が5,487件（24.1%）で全体の51.1%を占めている。

令和2年度の負傷事故2,097件のうち、第13表のとおり足（指含む）が527件（25.1%）、手（指含む）が491件（23.4%）で全体の48.5%を占めている。

第12表 負傷の部位別事故発生状況

年度 部位	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	計	%
頭(顔)	246	240	225	224	191	184	207	183	219	225	2,144	9.4
目	57	76	73	59	55	67	56	58	59	48	608	2.7
耳	8	4	9	5	8	6	6	6	6	7	65	0.3
首	44	34	51	23	30	23	33	25	32	26	321	1.4
腕	106	150	118	88	88	114	90	113	91	93	1,051	4.6
手	248	272	218	248	249	289	240	227	270	249	2,510	11.0
指(手)	381	367	311	298	265	277	272	281	283	242	2,977	13.1
足	629	635	597	541	532	522	477	491	528	448	5,400	23.7
指(足)	81	88	76	63	59	66	71	84	79	79	746	3.3
肩	116	156	128	101	130	113	105	109	121	105	1,184	5.2
胸(肋骨)	185	223	194	159	170	135	177	162	167	175	1,747	7.7
腹	54	46	42	40	53	42	43	38	33	33	424	1.9
腰	156	182	148	140	133	118	129	109	123	119	1,357	6.0
背	46	58	49	39	33	32	38	40	32	32	399	1.8
尻	18	23	23	18	12	18	18	10	17	13	170	0.7
全身	35	28	19	28	32	37	20	21	38	31	289	1.3
その他・不明	35	77	115	147	123	152	170	191	180	172	1,362	6.0
計	2,445	2,659	2,396	2,221	2,163	2,195	2,152	2,148	2,278	2,097	22,754	100.0

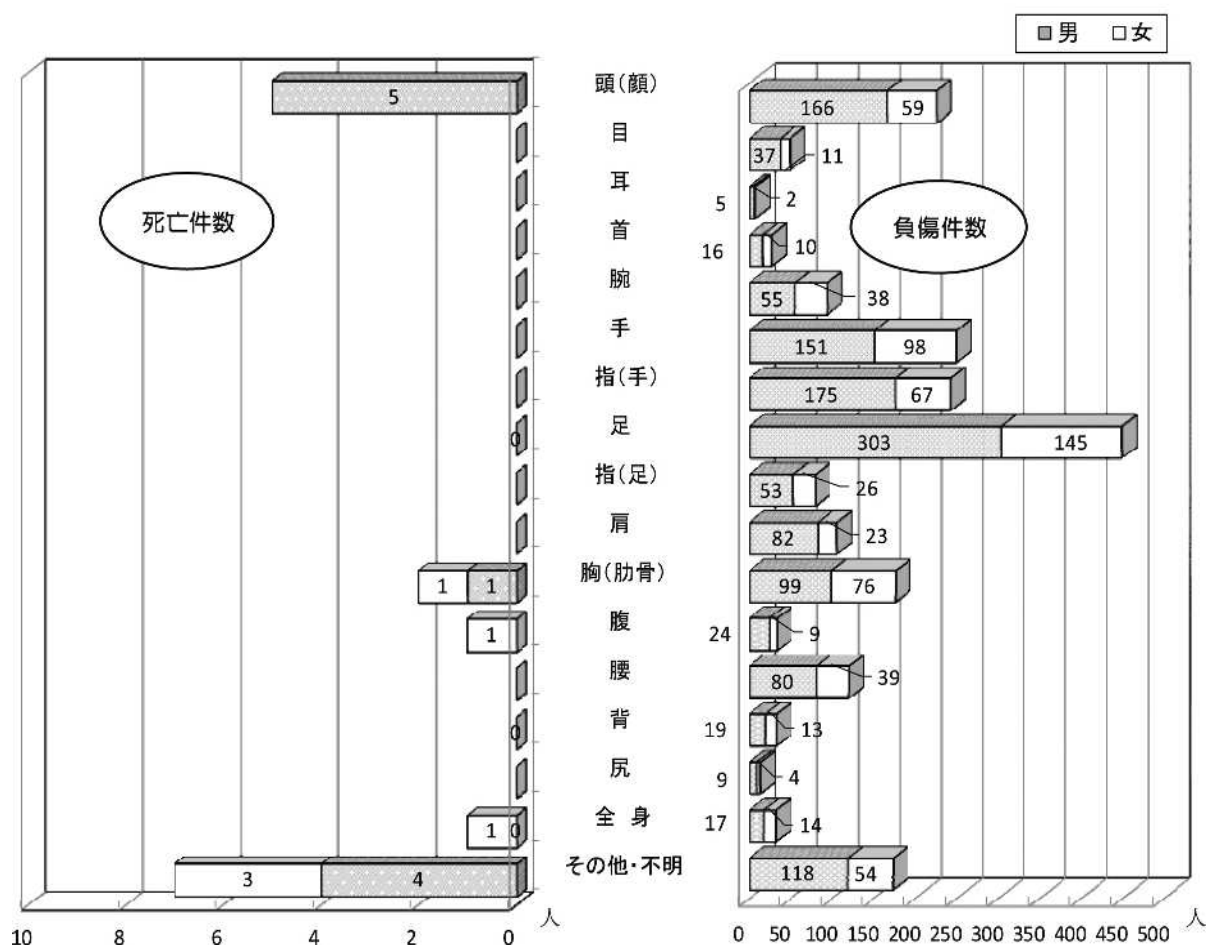
第10-1図 負傷の部位別事故発生状況  
(平成23年度～令和2年度=10年間)



第13表 令和2年度 部位別、性別事故発生状況

区分 部位	死 亡				負 傷			
	男	女	計	%	男	女	計	%
頭(顔)	5		5	31.3	166	59	225	10.7
目					37	11	48	2.3
耳					5	2	7	0.3
首					16	10	26	1.2
腕					55	38	93	4.4
手					151	98	249	11.9
指(手)					175	67	242	11.5
足					303	145	448	21.4
指(足)					53	26	79	3.8
肩					82	23	105	5.0
胸(肋骨)	1	1	2	12.5	99	76	175	8.3
腹		1	1	6.3	24	9	33	1.6
腰					80	39	119	5.7
背					19	13	32	1.5
尻					9	4	13	0.6
全身		1	1	6.3	17	14	31	1.5
その他・不明	4	3	7	43.8	118	54	172	8.2
計	10	6	16	100.0	1,409	688	2,097	100.0

第10-2図 令和2年度部位別・性別事故発生状況



## 9 負傷の内容

### 打撲、骨折、切傷、捻挫、挫傷の順

第 14、15 表に示している負傷事故の内容は、単独の負傷内容よりも「打撲と捻挫」といった複数の診断の付いたものが多い。

このような状況から、負傷事故は、その受傷の主な原因になったと思われる診断名を負傷内容として表示している。

過去 10 年間のトータルでは、第 14 表のとおり打撲 (30.0%)、骨折 (23.1%)、切傷 (7.8%)、捻挫 (6.0%)、裂傷 (5.5%)、挫傷 (5.3%) となっており、この 6 つの内容で全体の 77.8%を占めている。

令和 2 年度では、第 15 表のとおり打撲 (32.4%)、骨折 (21.2%)、切傷 (7.2%)、捻挫 (6.6%)、裂傷 (6.4%)、挫傷 (4.5%)、の順となっている。

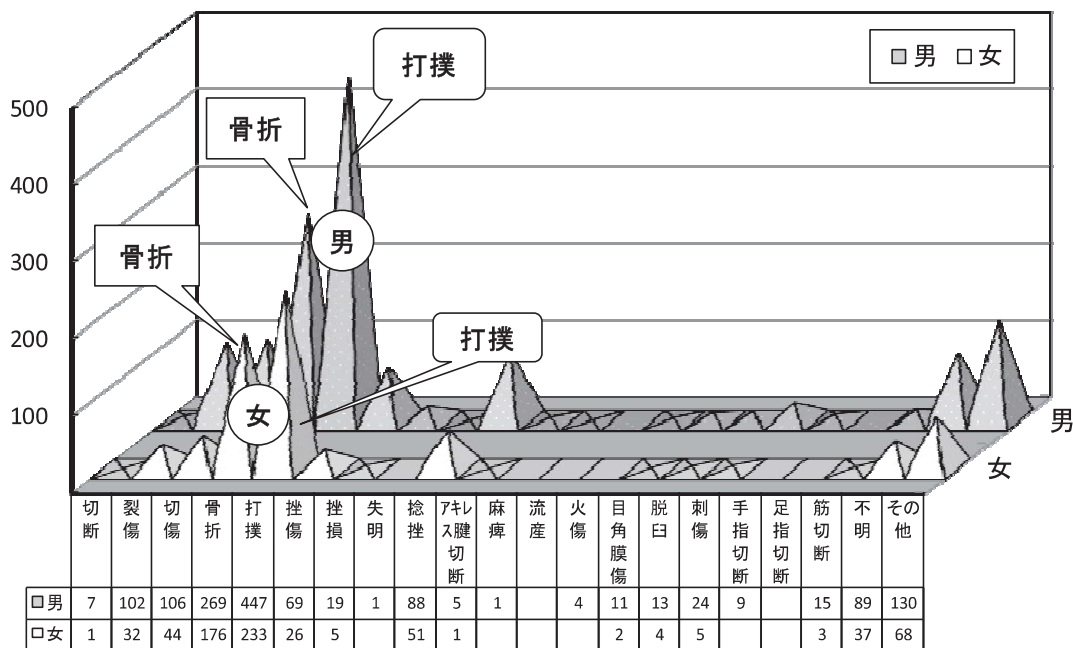
第 14 表 負傷事故の内容別発生状況

内容	年度	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	計	%
切 断		5	14	18	12	6	10	9	7	12	8	101	0.4
裂 傷		122	148	111	108	122	121	119	123	142	134	1,250	5.5
切 傷		208	190	204	197	173	175	163	153	163	150	1,776	7.8
骨 折		620	668	563	492	437	487	496	531	517	445	5,256	23.1
打 撲		650	711	673	689	717	701	686	613	715	680	6,835	30.0
挫 傷		149	133	114	96	117	129	132	120	124	95	1,209	5.3
挫 損		85	102	82	53	32	63	19	28	14	24	502	2.2
失 明				1					1	1	1	4	0.0
捻 挫		147	194	163	137	126	121	110	108	130	139	1,375	6.0
アキレス腱切断		13	8	14	10	6	6	11	11	6	6	91	0.4
麻 痺		2		2	1	6	1	2	8	1	1	24	0.1
流 産													
火 傷		19	13	12	11	12	8	15	9	11	4	114	0.5
目 角 膜 傷		32	35	40	29	17	16	23	22	29	13	256	1.1
脱 臼		18	23	18	11	18	21	13	18	29	17	186	0.8
刺 傷		66	51	54	18	34	42	28	25	29	29	376	1.7
手 指 切 断		17	12	21	10	11	27	9	14	13	9	143	0.6
足 指 切 断		2		3	1	2	1			1		10	0.0
筋 切 断		68	67	26	14	19	14	22	12	23	18	283	1.2
不 明		174	188	142	143	159	129	142	197	139	126	1,539	6.8
そ の 他		48	102	135	189	149	123	153	148	179	198	1,424	6.3
計		2,445	2,659	2,396	2,221	2,163	2,195	2,152	2,148	2,278	2,097	22,754	100.0

第15表 令和2年度 負傷内容別、性別事故発生状況

内 容	性 別	男		女		計	
		件 数	%	件 数	%	件 数	%
切 断	断	7	0.5	1	0.1	8	0.4
裂 傷	傷	102	7.2	32	4.7	134	6.4
切 傷	傷	106	7.5	44	6.4	150	7.2
骨 折	折	269	19.1	176	25.6	445	21.2
打 撲	撲	447	31.7	233	33.9	680	32.4
挫 傷	傷	69	4.9	26	3.8	95	4.5
挫 損	損	19	1.3	5	0.7	24	1.1
失 明	明	1	0.1			1	0.0
捻 挫	挫	88	6.2	51	7.4	139	6.6
アキレス腱切	断	5	0.4	1	0.1	6	0.3
麻 痺	痺	1	0.1			1	0.0
流 産	産						
火 傷	傷	4	0.3			4	0.2
目 角 膜 傷	傷	11	0.8	2	0.3	13	0.6
脱 臼	臼	13	0.9	4	0.6	17	0.8
刺 傷	傷	24	1.7	5	0.7	29	1.4
手 指 切 断	断	9	0.6			9	0.4
足 指 切 断	断						
筋 切 断	断	15	1.1	3	0.4	18	0.9
不 明	明	89	6.3	37	5.4	126	6.0
そ の 他	他	130	9.2	68	9.9	198	9.4
計		1,409	100.0	688	100.0	2,097	100.0

第11図 令和2年度 負傷の内容別事故発生状況



## 10 負傷の程度

### 入院 25%、通院 75%

過去 10 年間の事故者の入院、通院の状況は第 16 表のとおりである。

この調査では負傷の程度まで知ることができないため、入院か通院かでその程度を察知している。

ただし、入院が重く通院が軽いとは断定出来ないため、一応の傾向として捉えている。

過去 10 年間の入院と通院の割合では 25 : 75 となっている。

令和 2 年度の割合は 23 : 77 となっている。

第 16 表 事故者の入院・通院

区分 年度	入 院 人	通 院 人	不 明 人	計 人	合 計	
					入 院 %	通 院 %
23	482	1,963	-	2,445	20	80
24	562	2,097	-	2,659	21	79
25	622	1,774	-	2,396	26	74
26	548	1,673	-	2,221	25	75
27	578	1,585	-	2,163	27	73
28	545	1,650	-	2,195	25	75
29	568	1,584	-	2,152	26	74
30	654	1,494	-	2,148	30	70
1	657	1,621	-	2,278	29	71
2	488	1,609	-	2,097	23	77
計	5,704	17,050	-	22,754	25	75

(注) %は不明を除く。

## 11 トラクター事故の原因別状況

### 死亡が転倒・転落、負傷は物を落とす・物に挟む（作業機の整備着脱時）

#### (1) 死亡は、転倒・転落

トラクターによる死亡事故は、第 17 表のとおり過去 10 年間のトータルで 52 件となっている。そのうち原因では転倒・転落によるものが 25 件で全体の 48.1%を占めている。

令和 2 年度では、トラクターによる死亡事故のうち転倒・転落が 3 件 (50.0%)、同乗者、交通事故が各 1 件 (16.7%) となっている。

#### (2) 負傷は、トラクター乗降時の落下と作業機の整備・着脱時

トラクターによる負傷事故は、第 17 表のとおり過去 10 年間のトータルで 1,448 件となっている。そのうち原因では、乗降時等のトラクターからの落下が 297 件 (20.5%) で、次いで作業機の整備・着脱時等に物を落とす/物に挟むが 284 件 (19.6%) となっている。

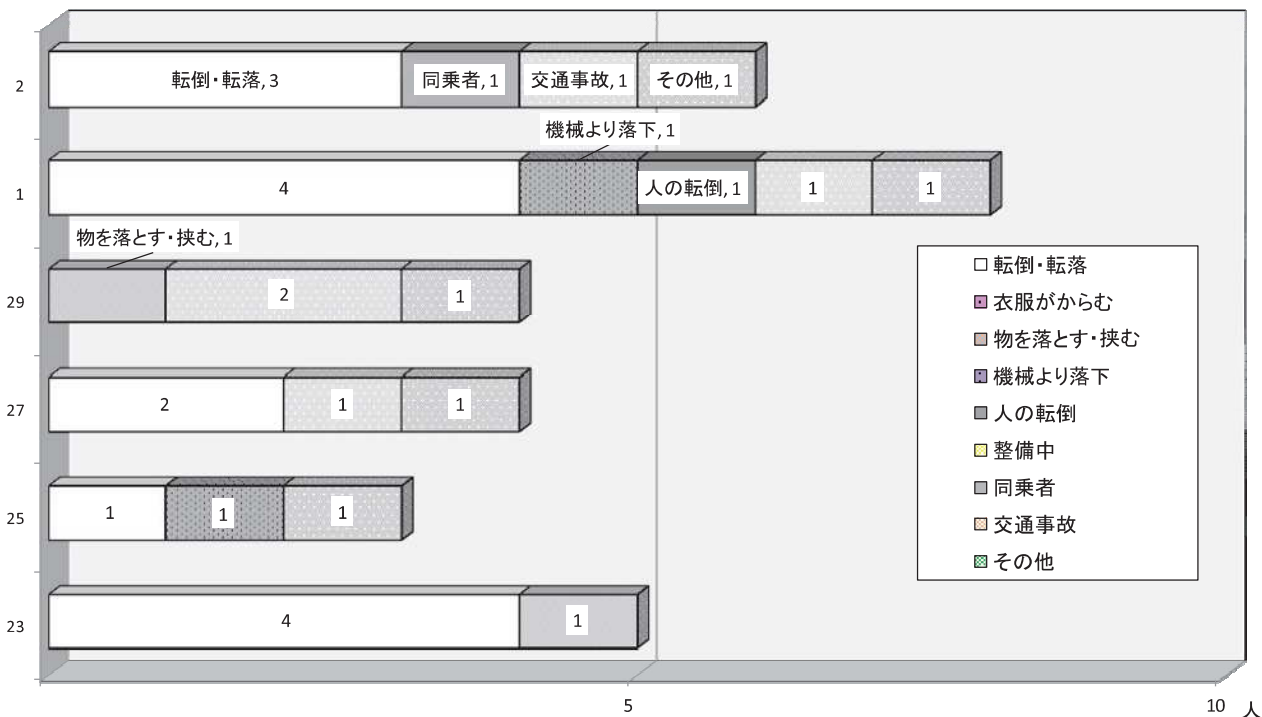
令和 2 年度ではトラクターによる負傷事故 142 件のうち、作業機の整備・着脱時等に物を落とす/物に挟むが 39 件 (27.5%)、乗降時等のトラクターからの落下が 22 件 (15.5%)、となっている。

第 17 表 トラクター事故の原因別事故発生状況

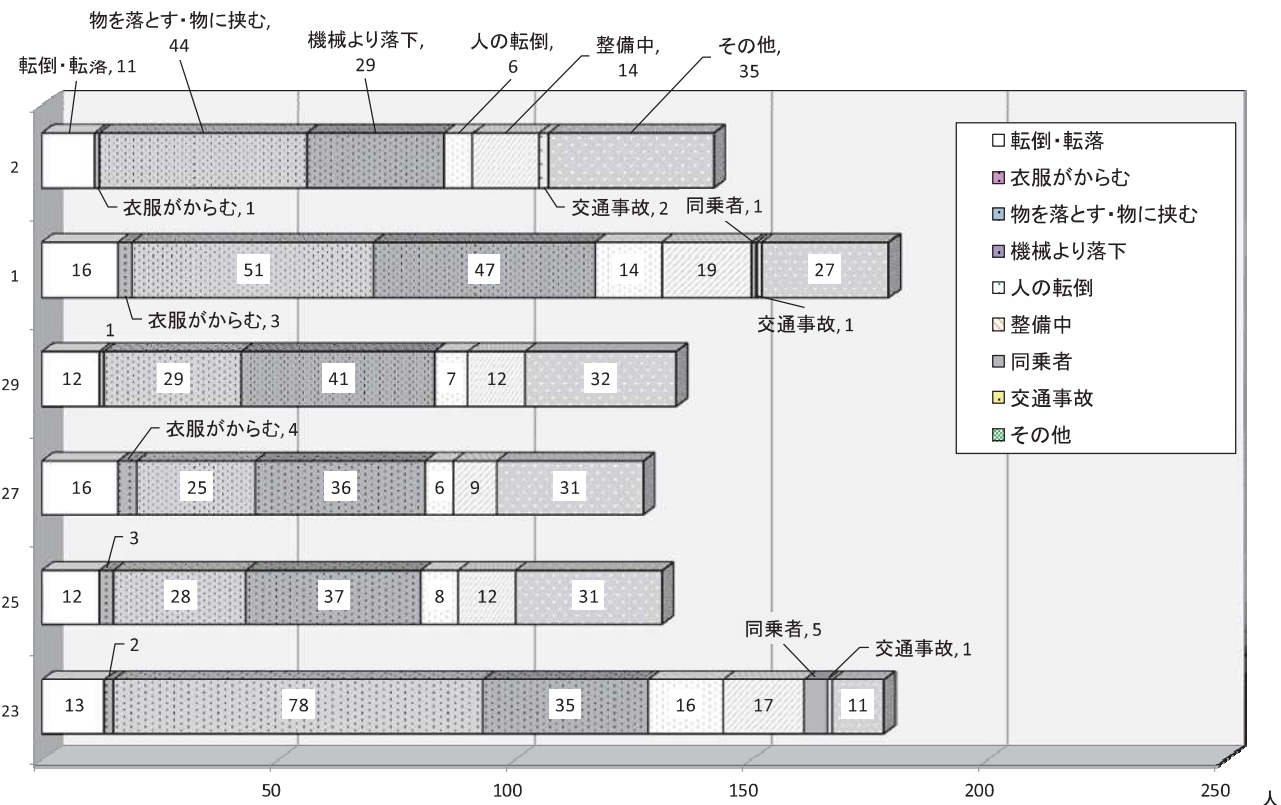
原因項目		年度			23			24			25			26			27			28		
		死亡	負傷	計	死亡	負傷	計	死亡	負傷	計	死亡	負傷	計	死亡	負傷	計	死亡	負傷	計	死亡	負傷	計
転倒・転落	田畑				2	2	2	1	1	2				2	2	2	1	1	2			
	牧草地	2	3	5	1	6	7		3	3				9	9					2	2	
	道路(含農道)		4	4	4	4	4	2	2					1	1	1	3	3	4			
		2	6	8	6	6	6	6	6	1	10	11	2	4	6	2	8	10				
衣服がむ	P T O 部		1	1				1	1				1	1						1	1	
	作業装置 その他		1	1		2	2	1	1		1	1	1	1	1	1	2	2				
物を落とす	整備・着脱時	1	58	59		39	39		21	21	1	20	21		16	16				15	15	
	動力伝達部		9	9		9	9		2	2					1	1						
	その他		11	11		8	8		5	5		9	9		8	8	1	3	4			
機械落下	乗降時		27	27		34	34		31	31		34	34		34	34				21	21	
	作業時乗降 作業中		8	8	3	10	13	1	6	7		4	4		2	2				3	3	
人の転倒	作業中		8	8		6	6		6	6		3	3		4	4				6	6	
	整備中		8	8		2	2		2	2					2	2				2	2	
整備中	油圧関係		4	4		2	2		3	3		1	1		3	3				2	2	
	機械関係		11	11		9	9		8	8		7	7		4	4				7	7	
	工具関係		2	2		5	5		1	1		3	3		2	2				4	4	
同乗者			5	5		6	6					2	2									
交通事故			1	1		1	1							1		1	1	5	6			
その他	作業機独自		1	1		2	2		1	1										1	7	8
	その他		10	10	2	43	45	1	30	31		42	42	1	31	32				24	24	
計		5	178	183	6	196	202	3	131	134	4	149	153	4	127	131	7	113	120			

原因項目		年度			29			30			1			2			計		
		死亡	負傷	計	死亡	負傷	計	死亡	負傷	計	死亡	負傷	計	死亡	負傷	計	死亡	負傷	計
転倒・転落	田畑	0	1	1		1	1		2	2				2	9	11			
	牧草地		4	4	1	7	8		7	9	1	4	5	9	55	64			
	道路(含農道)		3	3		1	1		2	2		2	2	1	22	23			
			4	4	2	4	6	2	7	9	2	5	7	13	60	73			
衣服がむ	P T O 部					1	1		2	2					7	7			
	作業装置 その他		1	1					1	1		1	1		6	6			
物を落とす	整備・着脱時		22	22		16	16		38	38		39	39	2	284	286			
	動力伝達部					1	1		1	1		1	1		24	24			
	その他	1	7	8	2	4	6		12	12		4	4	4	71	75			
機械落下	乗降時		34	34		20	20		40	40		22	22		297	297			
	作業時乗降 作業中		7	7		8	8	1	7	8		7	7	5	62	67			
人の転倒	作業中		7	7		5	5	1	11	12		6	6	1	62	63			
	整備中					5	5		3	3					24	24			
整備中	油圧関係		2	2		3	3		7	7		1	1		28	28			
	機械関係		7	7		3	3		11	11		12	12		79	79			
	工具関係		3	3		1	1		1	1		1	1		23	23			
同乗者								1	1	1		1	1	14	15				
交通事故		2		2				1	1	2	1	2	3	6	10	16			
その他	作業機独自		1	1		1	1		3	3		1	1	1	17	18			
	その他	1	31	32		18	18	1	24	25	1	34	35	7	287	294			
計		4	134	138	5	99	104	8	179	187	6	142	148	52	1,448	1,500			

第12図 トラクター事故の原因別事故発生状況(死亡)  
(平成23年度～令和2年度)



第13図 トラクター事故の原因別事故発生状況(負傷)  
(平成23年度～令和2年度)





## 12 農業就業人口（2020年農林業センサス）からみた農作業事故

1,000人当たり26.2人

農林水産省「2020年農林業センサス」による道内の農業就業人口は80,552人で、5年前の平成27年センサスの96,557人より16,005人減少している。

令和2年度の農業就業人口1,000人当たりの農作業事故者数は、第18表のとおり26.2人となっており、地区別では、根室、釧路、宗谷、日高が高くなっている。

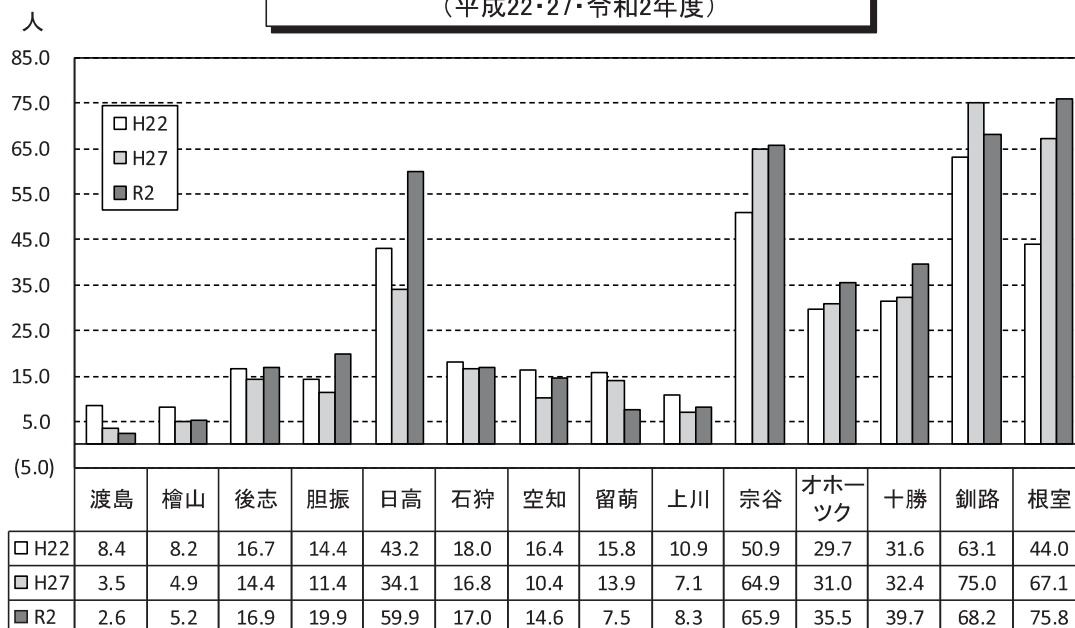
直近の10年間を見ても第14図のとおり根室、釧路、宗谷、日高の事故率が高い傾向にある。

第18表 農業就業者1,000人あたり事故件数（令和2年度）

区分 地区	就業者数			事故件数			就業者1,000人あたり		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
渡島	1,904	1,612	3,516	3	6	9	1.6	3.7	2.6
檜山	1,252	1,035	2,287	10	2	12	8.0	1.9	5.2
後志	2,765	2,271	5,036	54	31	85	19.5	13.7	16.9
胆振	1,889	1,572	3,461	45	24	69	23.8	15.3	19.9
日高	1,461	1,209	2,670	117	43	160	80.1	35.6	59.9
石狩	2,688	2,255	4,943	49	35	84	18.2	15.5	17.0
空知	7,590	6,168	13,758	156	45	201	20.6	7.3	14.6
留萌	893	699	1,592	9	3	12	10.1	4.3	7.5
上川	7,204	5,887	13,091	70	39	109	9.7	6.6	8.3
宗谷	903	630	1,533	66	35	101	73.1	55.6	65.9
オホーツク	5,393	4,393	9,786	238	109	347	44.1	24.8	35.5
十勝	7,404	6,108	13,512	364	172	536	49.2	28.2	39.7
釧路	1,363	1,101	2,464	109	59	168	80.0	53.6	68.2
根室	1,612	1,291	2,903	129	91	220	80.0	70.5	75.8
計	44,321	36,231	80,552	1,419	694	2,113	32.0	19.2	26.2

※就業者数は、北海道「2020農林業センサス」より。

第14図 農業就業者1,000人あたり事故件数の推移  
(平成22・27・令和2年度)



第19表 農業就業者1,000人あたり事故件数の推移

地区	年度 区分	23			24			25			26			27		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
渡島		8.0	3.1	5.6	9.2	6.2	7.8	9.2	4.4	6.9	5.9	4.9	5.4	5.3	1.6	3.5
桧山		10.4	7.4	8.9	8.3	1.5	5.0	9.7	0.0	5.0	6.9	0.7	3.9	8.3	0.9	4.9
後志		10.3	9.2	9.7	20.5	10.5	15.8	15.5	8.8	12.4	13.2	7.9	10.7	17.1	11.3	14.4
胆振		18.3	7.6	13.1	17.5	6.7	12.3	20.0	5.3	12.9	20.0	6.7	13.6	15.7	6.5	11.4
日高		56.5	14.1	36.6	60.3	18.4	40.5	56.5	13.2	36.1	62.0	11.3	38.1	50.8	14.5	34.1
石狩		20.3	7.8	14.4	22.3	13.5	18.1	17.2	7.8	12.8	15.8	11.0	13.5	18.9	14.4	16.8
空知		20.9	8.9	15.3	20.5	10.3	15.7	18.1	6.9	12.8	13.1	4.7	9.2	14.5	5.4	10.4
留萌		8.2	11.3	9.6	28.8	12.2	21.0	17.3	7.5	12.7	12.3	9.4	11.0	23.4	2.4	13.9
上川		16.7	5.6	11.4	13.5	8.3	11.0	12.3	5.6	9.1	9.9	3.8	7.0	8.4	5.7	7.1
宗谷		59.3	50.2	55.3	85.5	53.6	71.5	53.2	30.1	43.1	74.2	59.2	67.6	58.2	74.2	64.9
オホーツク		35.6	19.1	28.0	28.1	17.3	23.1	36.9	21.8	30.0	35.7	20.9	28.9	36.3	24.5	31.0
十勝		35.5	23.3	29.9	45.0	26.7	36.6	35.0	21.5	28.8	33.9	19.8	27.5	39.5	23.8	32.4
釧路		77.0	45.0	62.5	78.5	58.9	69.7	88.0	65.3	77.7	69.6	58.3	64.5	84.1	63.8	75.0
根室		54.9	42.0	49.1	59.1	47.7	53.9	57.0	46.1	52.1	47.7	46.6	47.2	65.7	68.7	67.1
全道		28.2	14.9	22.0	30.2	17.1	24.1	27.8	14.7	21.7	25.4	14.1	20.1	27.4	17.4	22.8

地区	年度 区分	28			29			30			1			2		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
渡島		6.2	1.0	3.7	3.8	4.1	4.0	7.6	2.1	5.0	3.3	3.1	3.2	1.6	3.7	2.6
桧山		6.8	0.9	4.1	5.3	5.3	5.3	2.3	0.9	1.6	5.3	4.4	4.9	8.0	1.9	5.2
後志		16.4	5.0	11.1	17.4	8.9	13.5	22.0	10.9	16.9	18.0	11.2	14.9	19.5	13.7	16.9
胆振		21.0	9.0	15.4	14.0	10.6	12.4	18.2	8.5	13.7	28.0	12.2	20.6	23.8	15.3	19.9
日高		48.7	13.2	32.4	58.4	20.1	40.8	64.2	19.5	43.7	64.7	23.5	45.8	80.1	35.6	59.9
石狩		21.9	10.4	16.6	19.6	10.0	15.2	17.3	14.7	16.1	20.0	12.3	16.5	18.2	15.5	17.0
空知		12.8	6.3	9.9	15.1	4.2	9.9	16.2	6.5	11.8	15.4	5.7	11.0	20.6	7.3	14.6
留萌		17.4	14.1	15.9	19.3	5.9	13.3	22.2	8.2	15.9	13.5	4.7	9.6	10.1	4.3	7.5
上川		10.5	4.7	7.8	12.2	3.7	8.2	9.7	4.5	7.3	10.5	2.5	6.8	9.7	6.6	8.3
宗谷		70.6	56.5	64.7	75.4	49.8	64.7	61.9	55.2	59.1	78.3	57.9	69.8	73.1	55.6	65.9
オホーツク		40.1	24.7	33.2	40.4	18.7	30.6	36.7	23.7	30.9	35.9	19.6	28.5	44.1	24.8	35.5
十勝		38.8	23.7	32.0	39.8	22.0	31.8	35.9	21.7	29.5	43.4	25.4	35.2	49.2	28.2	39.7
釧路		80.2	57.7	70.1	86.8	60.6	75.0	84.4	48.2	68.1	85.0	58.4	73.1	80.0	53.6	68.2
根室		64.7	74.1	68.9	52.1	57.0	54.3	55.8	59.4	57.4	68.9	65.3	67.3	80.0	70.5	75.8
全道		28.0	16.7	22.9	28.6	15.1	22.4	27.7	16.1	22.4	29.8	16.6	23.8	32.0	19.2	26.2